



Cisco TelePresence
Profile シリーズ
Codec C シリーズ
Quick Set C20
SX20 Quick Set
MX200
MX300

TC 7.3

ユーザ ガイド

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence
Profile シリーズ、Codec C シリーズ、
Quick Set C20
SX20 Quick Set、MX200、MX300
制作: 2014 年 12 月 (TC7.3)
All contents © 2010-2014
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

このユーザ ガイドの内容

ビデオ会議：概要

ベスト プラクティス	4
タッチ画面の各部	5
自分の資格情報でのシステムへのログイン	6

ビデオ コール

連絡先リストから発信する	8
連絡先リスト エントリを編集して発信する	9
名前を使用した発信	10
IP アドレスを使用した発信	11
番号を使用した発信	12
着信	13
通話中に別の通話に応答する	14
転送	15
打診と転送	16
通話からの切断	17
マイクの動作とプライバシーについて	18
通話を保留にする / 保留中の通話を再開する	19
帯域の変更	20
応答不可を有効にする	21
スタンバイを有効にする	22
通話中にキーパッドを表示する	23
既存の通話に参加者をさらに追加する	24
既存の通話に着信通話を追加する	25
会議参加者リストの表示	26
電話会議レイアウトの管理	27
プレゼンターの固定	28
参加者を通話から切断する	29

コンテンツの共有

通話中のプレゼンテーションの開始と停止	31
プレゼンテーション レイアウトを変更する	32
通話中ではない場合のプレゼンテーション	33

予定されている会議

会議リストの表示	35
予定されている会議に参加する	36
並行会議	37

連絡先

ディレクトリ	39
発信履歴から通話する	40
お気に入り	41
誰かを通話中にお気に入りに追加する	42

カメラ

カメラ設定の表示	44
カメラ位置プリセットの追加	45
既存のカメラ位置プリセットの編集	46
自分のカメラを操作する	47
スピーカートラッキング	48
自画面の管理	49
自画面 PiP のサイズを変更する	50
自画面 PiP の移動	51
他の参加者のカメラを操作する	52

設定

設定にアクセスするには	54
着信音とサウンド	55
カメラ操作	56
メイン ソースの選択	57
画面	58
言語の選択	59
システム情報	60
通信状態	61
診断モード	62
システムの再起動	63
管理者	64
[管理者設定] - [トラッキング]	65
[管理者設定] - [日付と時刻の設定]	66
[管理者設定] - [通話の詳細]	67
[管理者設定] - [プロビジョニングウィザード]	68
[管理者設定] - [マルチポイントモード]	69
[管理者設定] - [ベアリング]	70
[管理者設定] - [IP と VLAN - コーデック]	71
[管理者設定] - [ネットワーク状態 - コーデック]	72
[管理者設定] - [IP と VLAN - タッチ]	73
[管理者設定] - [ネットワーク状態 - タッチ]	74
[管理者設定] - [SIP]	75
[管理者設定] - [H323]	76
[管理者設定] - [EMC レジリエンスモード]	77
[管理者設定] - [初期設定へのリセット]	78

この目次のすべての項目はハイパーリンクとなっており、項目をクリックすると対応する記事に移動します。

章間で移動するには、対応するサイドバーのアイコンをクリックしてください。

注： このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。



ビデオ会議： 概要

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence
Profile シリーズ、Codec C シリーズ、
Quick Set C20
SX20 Quick Set、MX200、MX300
制作:2014 年 12 月(TC7.3)
All contents © 2010-2014
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

ベスト プラクティス



効果的なビデオ会議では、参加者の距離がどれだけ離れていても、対面式の会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

一般的事項

- ユニットを [自動応答] に設定することを検討してください。
- 必要に応じて、ビデオ システムの動作を確認してください。

会議室において

- すべての発表の音声拾われるよう、マイクをテーブルの前方に設置します。システムから少なくとも 2m (6.5 フィート) ほど離れた、テーブルの手前の端からの距離が 0.3m (1 フィート) 以上の平らな台が最適です。
- 指示用のマイクは、ビデオ システムから離れた場所に向ける必要があります。
- マイクは、発表する参加者から常に見える場所に置いておくようにします。
- 常に、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなどのノイズ源から離れた場所にマイクを置いてください。これらのノイズ源からの雑音は、リモート参加者には、予想以上に大きく聞こえます。
- ドキュメント カメラまたはホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラが会議のリーダーに近くなるように、または指定されたコントローラに近くなるように参加者を配置します。

- ホワイトボードを使用する場合は、ホワイトボードがメイン カメラと専用のホワイトボード カメラから見えるようにすると、リモート参加者にとってより良い会議に見えます。放送会社は通常、このようにしてプレゼンターが実際に同じ部屋にいるように視聴者に見せています。
- すべてのペリフェラルは、1 人の参加者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に配置してください。
- 最も自然なミーティング環境を確保するには、受信モニタの上部中央にカメラを置いてください（可能な場合）。遠くにいる会議参加者とアイ コンタクトできるように、カメラを会議参加者に直接向ける必要があります。これは、ビデオ システムの自画面機能を使用して確認してください。自画面には、遠隔地の相手がシステム（発信ビデオ）から見る内容が表示されます。
- コンテンツを共有する場合、通常はデュオ ビデオを使用します。つまり、2 本のビデオ ストリームを使用します。プレゼンテーション用とプレゼンター（またはプレゼンター グループ）用です。小規模のシステムの場合、プレゼンテーションとプレゼンターのどちらを表示するかを選択しなければならないことがあります。
- デュオ ビデオの場合、注意が必要な点があります。デュオ ビデオでは、多くの場合、画面の横半分にプレゼンテーション、残りの横半分にプレゼンターが表示されます。すべてリモート モニタで表示される場合は、プレゼンテーションに背中を向けるのではなく、プレゼンテーションに目を向けている印象を与えるようにしてください。確信が持てない場合は、カメラを真っ直ぐに見つめて、このような状況を回避してください。

使いやすさ

- 会議参加者がダイヤル、プレゼンテーションの追加、および通話中にその他の機能を使用できるように、室内にポスター、テーブル テント、またはその他のクイック リファレンス ガイドを置くことを検討してください。

その他のヒント

カメラ プリセットの使用

Cisco TelePresence システムでは、ズームおよびカメラの向き（パンと傾斜）を事前定義できます。必要に応じて、これらを使用してプレゼンターを拡大します。その後、忘れずにズーム アウトしてください。

スピーカーの音量

オーディオ システムでは、モニタに内蔵されたスピーカーか、Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。

システムによっては、モニタのリモコンでボリュームを調整することで、デフォルトのボリュームを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタの専用リモコンを使用します。会議室の条件に合うように、モニタを調整してください。シスコのモニタには、非常に簡単に使用できる、オンスクリーン メニューがあります。このようにモニタを設定する方法については、該当するユーザ ガイドと管理マニュアルを参照してください。

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence Profile シリーズ、Codec C シリーズ、Quick Set C20 SX20 Quick Set、MX200、MX300
 制作:2014 年 12 月(TC7.3)
 All contents © 2010-2014
 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

タッチ画面の各部

応答不可機能をアクティブ / 非アクティブ化する場合、スタンバイ機能をアクティブ / 非アクティブ化する場合、および [設定] にアクセスする場合は、ここをタップします。

ヘルプ デスクにアクセスするには、[?] を タップします (表示されている場合)。

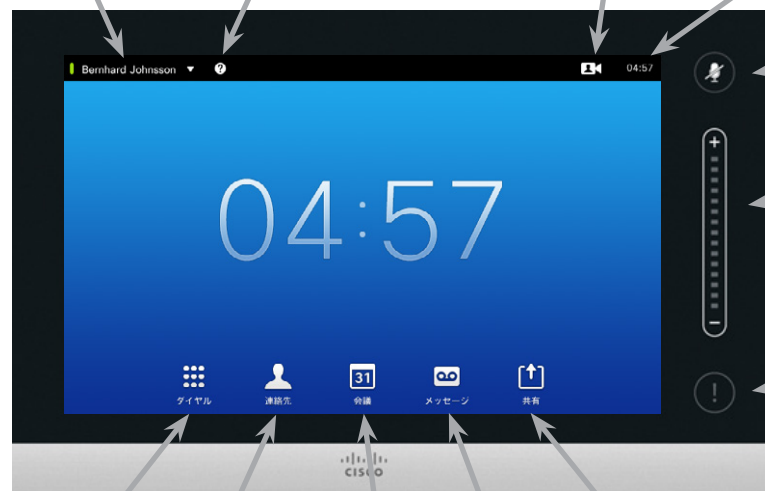
自画面とカメラ設定をアクティブ化するにはカメラ アイコンをタップします。

時刻が表示されます。

マイクのミュート / ミュート解除を切り替えるには、マイク ボタンを押します。

音量を調整するには音量バーを使用します (タップしてドラッグ)。

離席中にメッセージを受信した場合は、右下に小さなアイコンが表示されます。



ダイヤル パッドを呼び出すには [ダイヤル] をタップします。

[お気に入り]、[ディレクトリ]、および [発着信履歴] を含む連絡先のリストを呼び出すには [連絡先] をタップします。

次回予定されている会議のリストを呼び出すには [会議] をタップします。

ボイス メールシステムを呼び出すには [メッセージ] をタップします (該当する場合)。

コンテンツの共有を開始し、プレゼンテーションを実施するには、[プレゼンテーション] をタップします。



必要に応じて、タッチ画面をタップしてシステムを起動します。



ボタンをタップして機能をアクティブにします。



図のようにリストをスクロールします。

応答不可について

[応答不可] に設定すると、着信音はミュートになり、他者からの着信は不在着信として表示されます。

ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

デフォルトでは、[応答不可] がタイムアウトになるまでの時間 (システムが通常の動作に戻るまでの時間) は 60 分です。ただし、この設定は、ビデオ サポート チームによって変更されている可能性があります。

自分の資格情報でのシステムへのログイン



1



図のように、
[サインイン] をタップ
します。

2



図のように、
プロフィールを選択します。

3



図のように、資格情報
を入力して [サインイン]
をタップします。

4

サインインが成功したことが確認
されます。これで、自分宛ての
電話が着信ようになります。

5



サインアウトするには、
図のように
[サインアウト] を
タップします。

6



確認メッセージが
表示されます。

ホットデスクについて

会議室や静音室にある、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) で実行中のビデオ システムには、自身の資格情報でログインすることができます。

こうすると、CUCM は、自分宛ての着信をすべてそのビデオ システムにルーティングします。



ビデオ コール

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence
Profile シリーズ、Codec C シリーズ、
Quick Set C20
SX20 Quick Set、MX200、MX300
制作:2014 年 12 月(TC7.3)
All contents © 2010-2014
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

連絡先リストから発信する



図のように、[連絡先] をタップします。



特定のリスト（お気に入り、ディレクトリ、または発信履歴）で誰かを検索するには、そのリストをタップし (a)、下へスクロールして (b) エントリを探します。



または、図のように [検索またはダイヤル] フィールドをタップします。仮想キーボードが呼び出されます。



名前、番号、または IP アドレスをキー入力します。
入力と同時に、一致するエントリが表示されます。



拡張数字モードを使用できます。このモードには、特殊文字が含まれています。
英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、図のように、キーボードの左下にあるキーをタップします。



発信の準備ができたなら、緑色の [発信] ボタンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り]: 自分で [お気に入り] に追加した連絡先です。通常、これらのエントリは頻繁に通話する相手か、便利な方法で迅速にアクセスする必要がある人です。

[ディレクトリ]: 通常は、ビデオ サポート チームによってシステムにインストールされている社内ディレクトリです。

[発信履歴]: 最近の発信、着信、または不在着信のリストです。

プライバシー上の理由で、発信履歴リストをクリアすることもできます。[「発信履歴から通話する」\(40 ページ\)](#) を参照してください。

次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または IP アドレスをキー入力できます。これにより、すべてのリストが検索されます。
- タブをタップしてリストをスクロールすることも、名前か番号を入力することもできます。この場合は、検索が特定のリストでのみ実行されます。
- お気に入りのリストにエントリを追加したり、通話前にエントリの各側面を編集したり、帯域を変更したり、エントリを [発信履歴] から削除したりすることができます。

連絡先リスト エントリを編集して発信する

エントリ編集について

①



図のように、
その他 (●●●) を
タップすると、
オプションが
表示されます。

②



図のように、[編集して
通話] をタップします。
仮想キーボードが
呼び出されます。

③

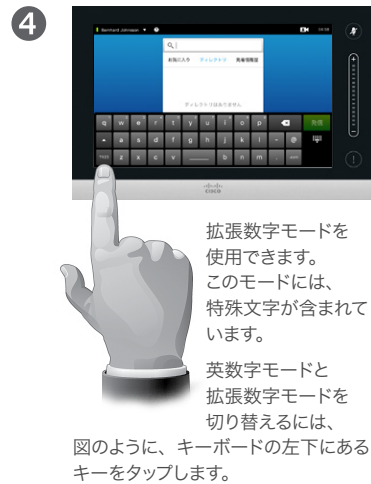


編集内容を適用し、
図のように緑色の [発信]
ボタンをタップして発信します。

発信する前に、連絡先リストのいずれかのエントリを編集する必要がある場合があります。正常に完了するために、プレフィックスまたはサフィックスを追加したり、エントリを変更したりする必要がある場合があります。



名前を使用した発信



発信について

連絡先リストにない人に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで) [発信履歴] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線への発信: 通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[キーパッド] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

IP アドレスを使用した発信



発信について

連絡先リストにない人に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで) [発着信履歴] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線への発信: 通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[キーパッド] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

番号を使用した発信



図のように、[ダイヤル]をタップして数字のダイヤルパッドを呼び出します。



番号を入力します。



発信の準備ができたなら、緑色の [発信] ボタンをタップします。

発信について

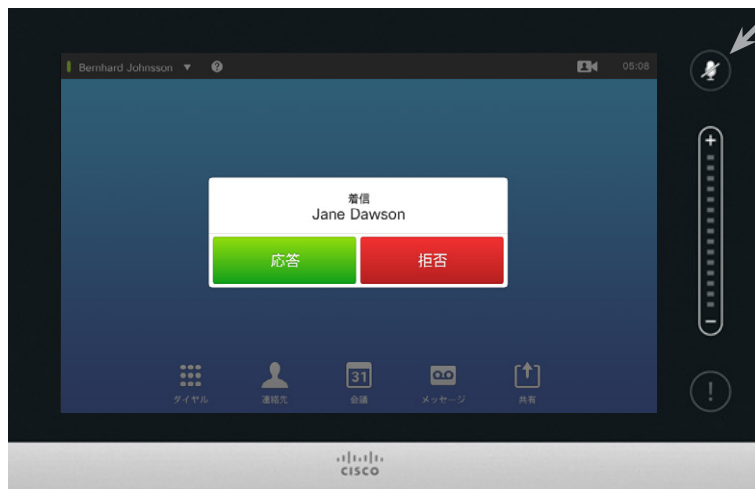
連絡先リストにない人に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで) [発着信履歴] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線への発信: 通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[キーパッド] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

着信 着信



着信に自動的に応答するようにシステムを設定した場合（「自動応答」）、システムのマイクをミュートにして、プライバシーを守ることができます。

このシンボルが表示されている場合、マイクはミュートにされています。マイクをミュート / ミュート解除するには、このマークをタップします。

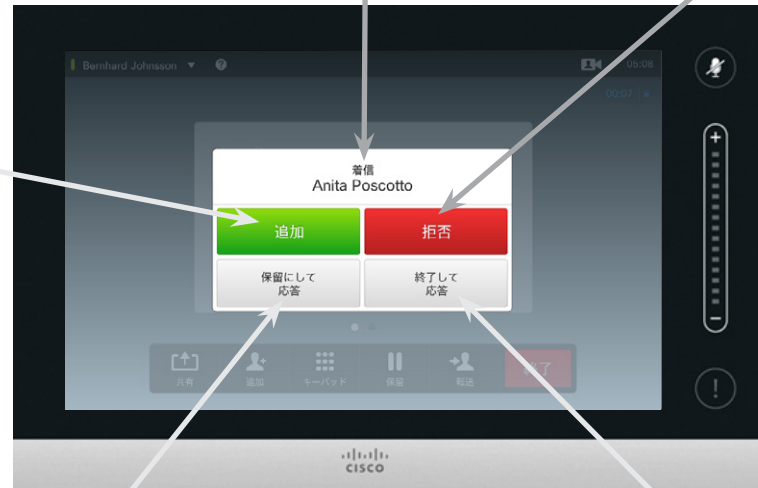
着信があった場合

- 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- 着信を拒否すると、通話中であるという情報が発信元に送信されます。
- 通話を無視した場合、発信者には、自分が不在である（通話を取らなかった）場合と同じように見えます。
- 着信に自動的に応答するように、システムを設定することができます（「自動応答」）。この機能については、「[「管理者設定」-「通話の詳細」](#)」（67 ページ）で説明しています。ビデオ サポート チームがこのメニューをパスワードで保護している場合があります。
- 「自動応答」をアクティブにした場合、マイクをミュートにしてプライバシーを守ることができます。これは、毎回手動で設定する必要があります。

通話中に別の通話に応答する

[追加] : システムに MultiSite オプションが搭載されている場合は、着信通話を既存の通話にマージできます。

MultiSite オプションがインストールされていないシステムでも着信をマージすることはできませんが、この場合は音声のみとなります（ビデオは表示されません）。



新しい着信の ID。

着信を**拒否**し、既存の通話を続行します。

着信を**許可**し、現在の通話または通話グループを保留にします。

着信を**許可**し、現在の通話または通話グループを終了します。

オプションについて

特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



転送

1



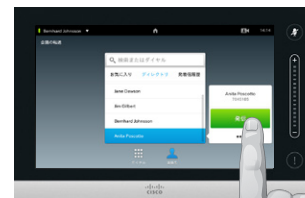
図のように、通話中に
「転送」をタップします。

2



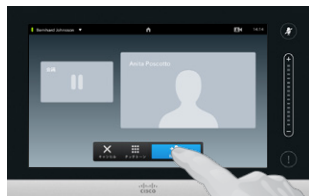
通常の方法で、
発信先を
探します。

3



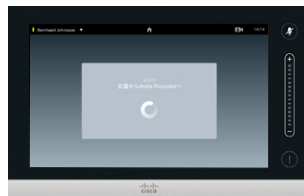
通常の方法で発信
します。

4



「転送完了」をタップ
します。サイドバー
にあるテキストも
参照してください。

5



通話が転送されます。

転送について

基本的に、2つの方法で通話を転送できます。つまり、無人転送と許可による転送です。

このページでは、無人転送について説明します。無人転送では、転送前に転送先に打診することなく、通話を転送することができます。

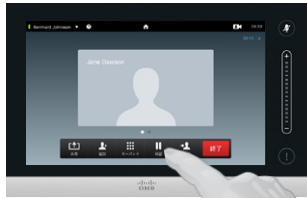
先に転送先に打診する場合は、スワップ機能（詳細については、次のページを参照）を使用してから転送します。



打診と転送

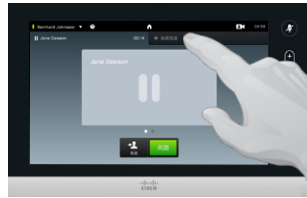
打診と転送について

1



通話中の場合は、
図のように、[保留]
をタップします。

2



図のように [+ 新規発信] をタップする
か、[再開] をタップして元の通話相手
に戻ります（操作を元に戻します）。

3



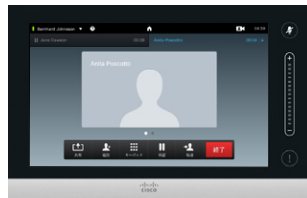
通常の方法で、
発信先を
探します。

4



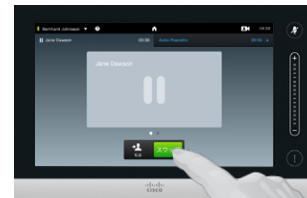
通常の方法で発信します。

5



これで、元の相手先との通話を
保留にしたまま、新しい通話が
開始されます。

6

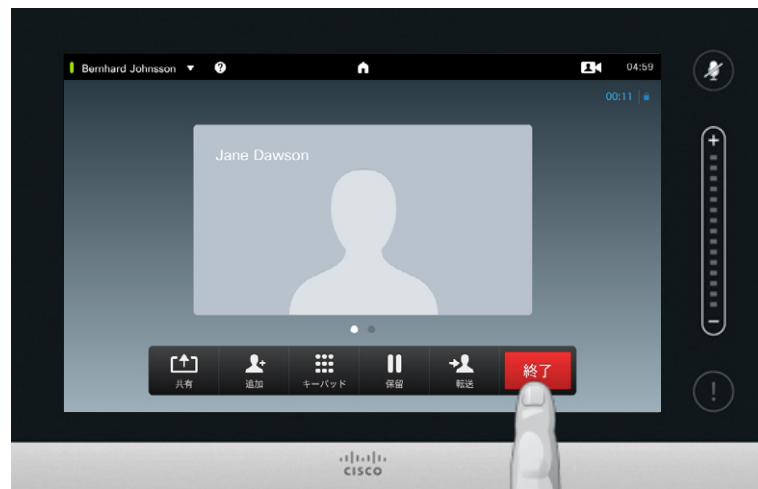


2 つの相手を行き来するには
[スワップ] を
タップし、2 つの
相手を接続して
自分は通話を終了するには、[転送] を
クリックします。

この機能を使用して、2 人との通話中に、1
人とだけ話すことができます。

通話の相手を切り替えたり、通話を終了した
りするときに通話先の 2 人を接続すること
ができます。

通話からの切断



図のように、通話から切断するには、
[終了] をタップします。

切断について

通話中に [終了] をタップすると、通話から切断されます。2 つの相手のみと通話中の場合、これにより、通話が終了されます。

複数の参加者がいる電話会議では、[終了] をタップすると、自分が通常の参加者である場合にのみ、自分の参加が終了されます。

ただし、自分が会議のホスト（つまり、会議を開始した者）である場合、[終了] をタップすると会議全体が終了します。

マイクの動作とプライバシーについて

[ミュート] ボタンには、マイクが音声を
発信しているかミュートされているかを
示す LED があります。

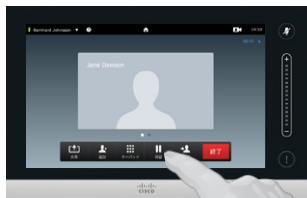


マイクは、緑色の LED が点灯している場合にのみ
音声を発信します。

通話を保留にする / 保留中の通話を再開する

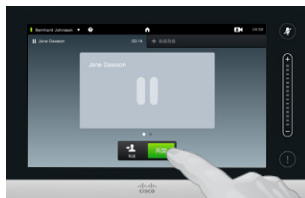
保留にすることについて

1



通話中の場合は、
図のように、[保留]
をタップします。

2



[再開] をタップして、
通話状態にあった
相手に戻ります
(操作を元に戻すため)。

通常、相手を保留にする操作は、誰かを他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止などを含むミュートの代わりとしても使用できます。



帯域の変更

①



通話前だけに使用
できます。

図のように、
その他 (●●●) を
タップすると、
オプションが表示されます。

②



図のように、[帯域] を
タップします。

③



図のように、スライダを
動かして帯域を変更します。

帯域について

帯域は、通話に割り当てられる帯域幅の量を表す用語であり、kbps (1 秒あたりのキロビット数) で測定されます。

帯域が大きくなるほど、品質が向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

システムには、デフォルトの帯域が設定されています。これは、パスワードで保護された管理者設定の一部としてビデオ サポートチームによって設定されます。

この設定を一時的に変更するのはどのような場合かという、多くの場合、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きい帯域で誰かと通話しようとするときにビデオ通話のチョークを避けるために使用します。

帯域は、通話中は変更できませんが、ここで示しているように発信直前に変更できます。

応答不可を有効にする

1



図のように、左上隅のフィールドをタップします。

2



図のように、[応答可能] または [応答不可] をタップします。

3



メニュー以外の場所をタップし、メニューを終了して変更を適用します。

応答不可について

着信に応答しないように、システムを設定することができます。ただし、他者に自由に発信するためにこれを使用することもできます。



スタンバイを有効にする

1



図のように、左上隅のフィールドをタップします。

2



図のように、
[スタンバイ] をタップします。

3



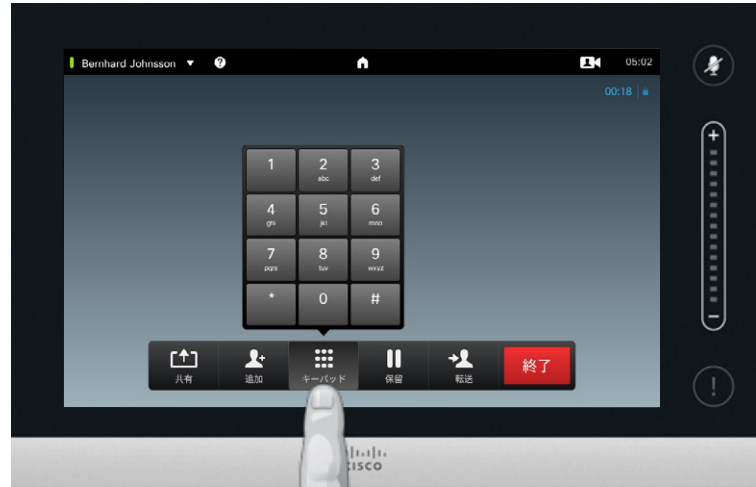
数秒後に画面がオフになります。
起動するには、画面をタップします。

スタンバイについて

システムをスタンバイに設定して電力を節約できます。スタンバイに設定しても、通常どおりに着信できます。



通話中にキーパッドを表示する



図のように、通話中に
[キーパッド] をタップ
します。



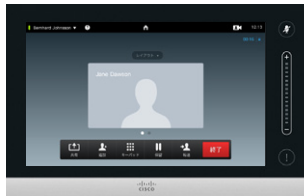
通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線にアクセスできるようにしたり、（暗証番号コードなどで）何かに入る資格を得たりするために、番号を送信するように要求される場合があります。

これを送信できるようにするには、タッチ画面にキーパッドを呼び出す必要があります。

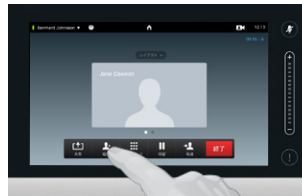
既存の通話に参加者をさらに追加する

1



すでに通話中であるとして、この通話は、あなたか別の人（他の人があなたに発信した場合）が開始しました。

2



図のように、[追加]をタップします。

3



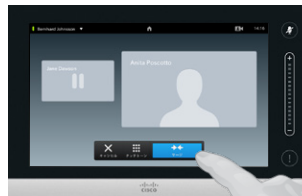
通常の方法で、発信先を探します。

4



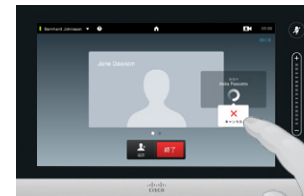
通常の方法で発信します。発信する前にその通話の通話設定を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。

5



図のように、会議を作成するため [マージ] をタップするように求められることがあります。

6



この新しい通話は既存の通話に追加され、会議が作成されます。図のように、最初の通話を終了することなく、この通話をキャンセルすることができます。

ビデオ会議について

お使いのビデオ システムが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。

ビデオ システムがサポートしている参加者の最大数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって異なります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームに問い合わせてください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に 1 人ずつ発信する必要があります。

自分で会議を開始した場合は、会議そのものを終了することもできます。他の参加者は、会議に対する自分の接続のみを切断することができます。

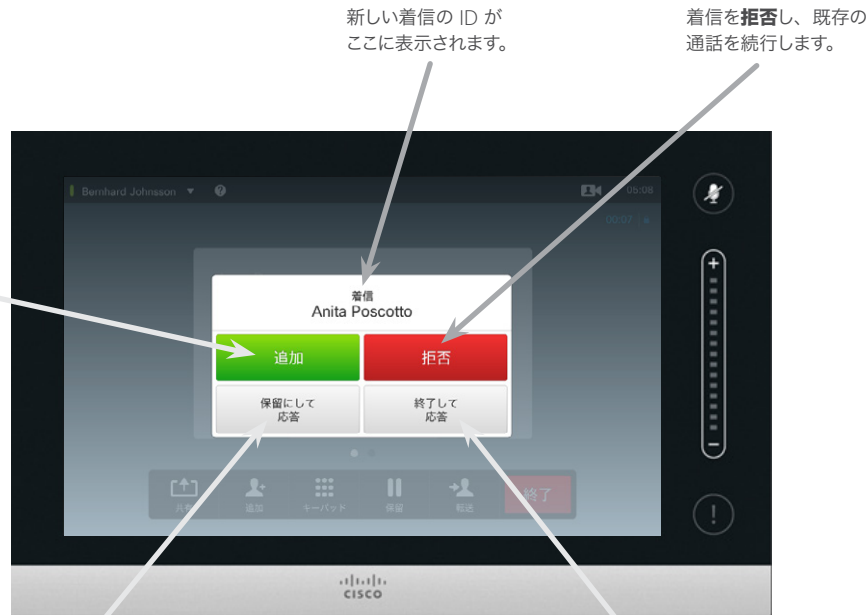
通話設定： 通話相手は、異なる帯域幅のビデオ システムを使用している場合があります。すべての参加者をすべてのシステムがサポートしている帯域幅に設定するように制約されているわけではありません。システムで利用できる最高の品質を全員に提供するために、[帯域] はすべての参加者で個別に設定できます。[「帯域の変更」\(20 ページ\)](#)を参照してください。

既存の通話に着信通話を追加する

追加：システムがサポートしている場合は着信通話を許可し、現在行われている通話とマージします。

一部のシステムでは、着信通話を既存の通話とマージすることが許可されますが、音声のみの通話として許可されます。

マージを実行するには、現在の通話（または通話グループ）を保留にすることが求められる場合があります。



新しい着信の ID が
ここに表示されます。

着信を**拒否**し、既存の
通話を続行します。

着信を**許可**し、現在の通話または
通話グループを保留にします。

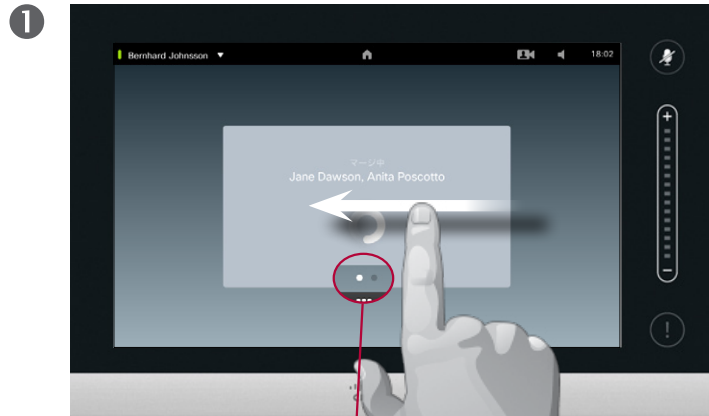
着信を**許可**し、現在の通話または
通話グループを終了します。

着信通話の追加について

すでに通話中であるとして。別の着信があった場合は、次のいずれかの操作を実行できます。

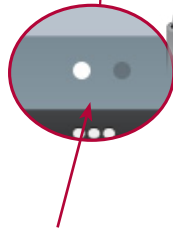
- 通話を拒否し、前の通話を続行します。
- 現在の通話を保留にして、新しい通話を受け入れます。2 つの通話をいつでもスワップすることができます。
- 着信を他の人に転送することができます。この中には、自分が話していた相手も含まれます。
- 着信を保留にした後で、この通話を既存の通話とマージすることができます（オプション機能）。
- 着信は進行中の通話に直接マージできます（[許可してマージ]）。これは、MultiSite が装備されているシステムにのみ適用されます。

会議参加者リストの表示



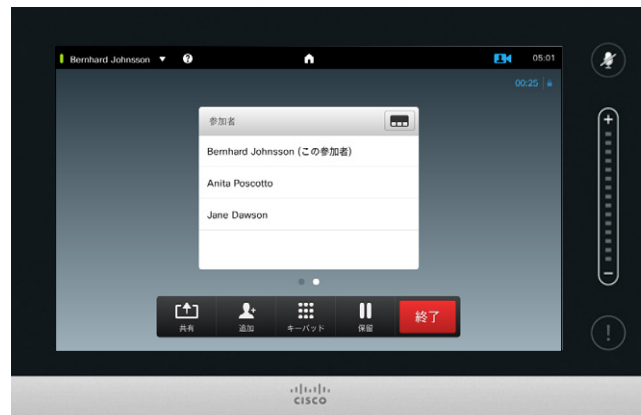
図のように、通話中に指を左に向けて水平にスワイプします。

または、図のように、小さな点のうち、白で示されていないほうをタップします。



2

リストにすべての参加者が表示され、現在発表している参加者、コンテンツを共有している参加者（該当する場合）、および保留にされている参加者（該当する場合）が表示されます。

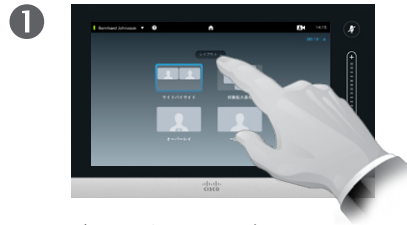


参加者リストの使用

リストは、すべての参加者の情報と現在のステータスを知る上で便利な方法です。

また、リストを使用して、参加者と会議との接続を切断したり、参加者に特定の権限を付与したりすることができます。たとえば、他者が話し始めた場合でも、プレゼンターとしての立場を保持することができます。これらの機能については、この後のページで説明します。

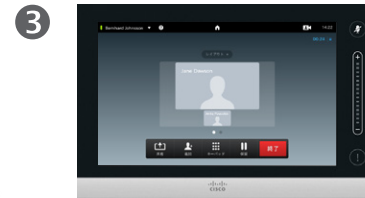
電話会議レイアウトの管理



ビデオ スクリーンで既存のレイアウトを変更するには、図のように [レイアウト] をタップします。



図のように、使用する新しいレイアウトをタップします。



新しいレイアウトが適用されます。

レイアウト オプションについて

通話中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。タッチ パッドに使用可能なオプションが表示されます。実際のオプションはここに表示されるものとは異なる場合がありますが、タッチ デバイスには常に使用できるものが表示されます。

WYSIWYG (what you see is what you get) の原理がここにも適用されています。

自画面を含める

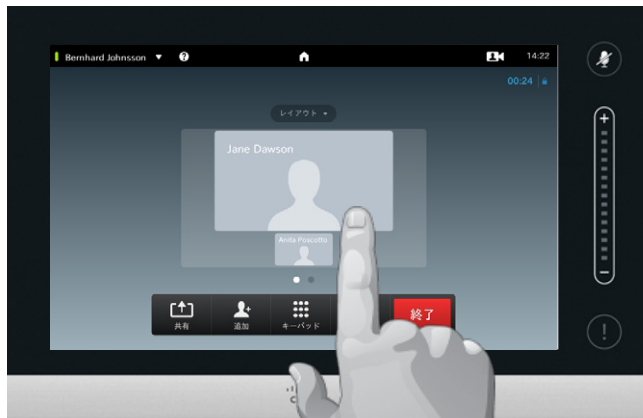
自画面（ビデオ システムから他者に見える内容）は通常と同じように、任意のレイアウトに追加できます。自画面を呼び出すには、[「自画面の管理」\(49 ページ\)](#) を参照してください。

必要に応じて、自画面を他の位置に移動することもできます。

[「自画面 PiP の移動」\(51 ページ\)](#) を参照してください。

プレゼンターの固定

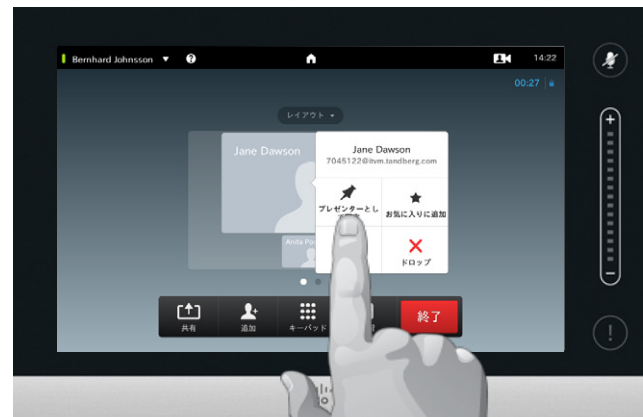
1



1 人の参加者がプレゼンターとして表示されているレイアウトで、プレゼンターのアバターをタップします。

このレイアウトの例では、参加者の 1 人がプレゼンターとして表示されています。つまり、参加者の 1 人が他の参加者よりも大きく表示されています。

2



図のように、[プレゼンターとして固定] をタップします。

[プレゼンターとして固定] をタップすると、このフィールドの名前が [プレゼンターを解除] に変更されます。

プレゼンターを解除するには、同じ手順を繰り返します ([プレゼンターを解除] をタップ)。

プレゼンターの固定について

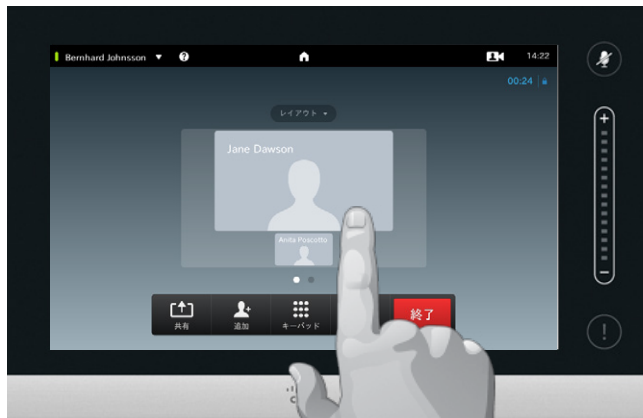
複数の参加者とのビデオ会議では、デフォルトとして、プレゼンターが大きな画像で表示されます（別のレイアウトを設定していない場合）。これは、音声切り替えと呼ばれます。

ただし、参加者のいずれかをプレゼンター（通常は他の参加者よりも大きく表示）として表示し続けることもできます。

これを実現するには、このページに示すプレゼンターとして固定機能を有効化します。

参加者を通話から切断する

1

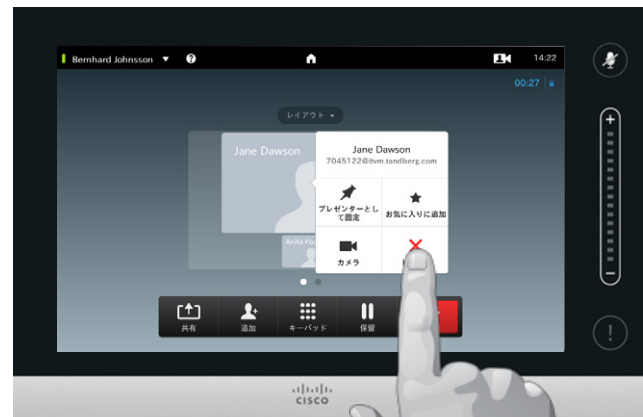


参加者のリストを呼び出し、そのリストの参加者をタップすることもできます。

図のように、接続を切断する参加者をタップします。

そのためには、権限が必要です。

2



図のように [ドロップ] をタップして、選択した参加者の接続を切断します。

切断について

権限を与えられている参加者は、他の参加者の接続を切断することができます。図に示したようなビューまたは参加者のリストで、参加者をタップしてください ([「会議参加者リストの表示」\(26 ページ\)](#) を参照)。図のように、[ドロップ] をタップします。





通話中、または通話中ではない場合でも、コンテンツを共有することができます。後者の場合は、ビデオ システムを使用して、ローカルの会議室でコンテンツを共有します。



コンテンツの共有

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence
Profile シリーズ、Codec C シリーズ、
Quick Set C20
SX20 Quick Set、MX200、MX300
制作:2014 年 12 月(TC7.3)
All contents © 2010-2014
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

通話中のプレゼンテーションの開始と停止

コンテンツの共有について

ビデオ システムは、ビデオ通話またはビデオ会議のほかに通話中ではない場合でもプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。後者の機能により、システムを使用して会議室でローカルなプレゼンテーションを行うことができます。このため、ビデオ システムと会議室自体の用途が広がります。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。詳細については、次のページを参照してください。



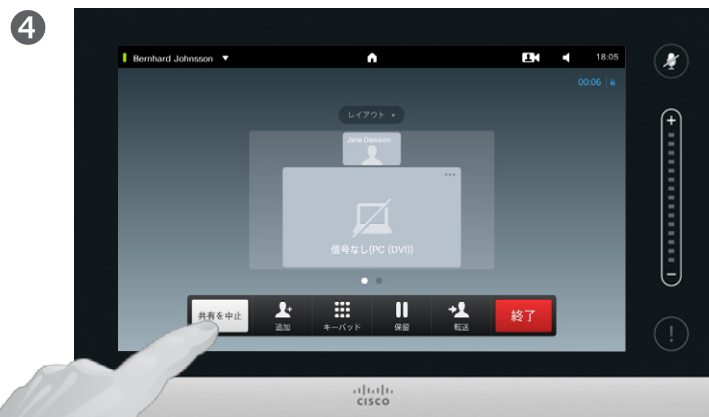
ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。必要に応じて、[共有] をタップし (a)、水平にスクロールして (b) プレゼンテーションソースを探します。プレゼンテーションソースが見つかったら、目的のソースをタップします。



メニューにアクセスするには、三連ピリオド (⋮) をタップします。メニューでは、選択したソースのコンテンツをプレビューしたり、共有したりできます。



共有する前に、共有する内容を確認する場合は、[プレビュー] をタップします。確認してから、[共有] をタップすると、実際にソースのコンテンツの共有が開始されます。



これで、接続中の参加者全員が共有コンテンツを確認できるようになります。コンテンツの共有を中止するには、図のように [共有を中止] をタップします。



プレゼンテーション レイアウトを変更する



図のように、[レイアウト] をタップして、レイアウトのオプションを呼び出します。

2

目的のレイアウトをタップして
選択します。



プレゼンテーション レイアウトについて

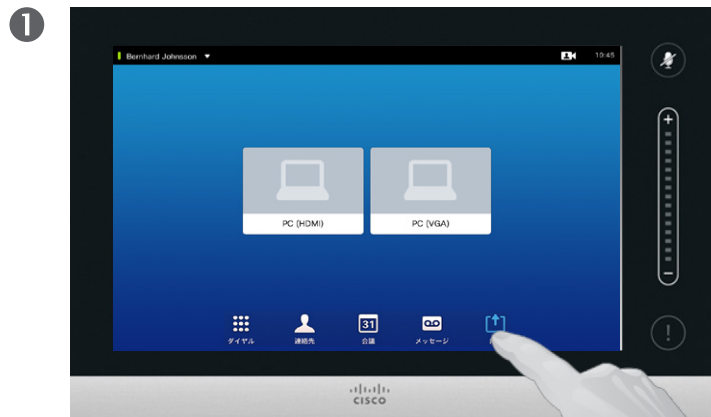
プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。通常は、プレゼンターを表示するかどうか、およびプレゼンターを PiP (ピクチャ イン ピクチャ) と PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) のどちらで表示するかを選択できます。

システムで使用可能なレイアウトのオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、常に、選択可能なレイアウトが表示されます。

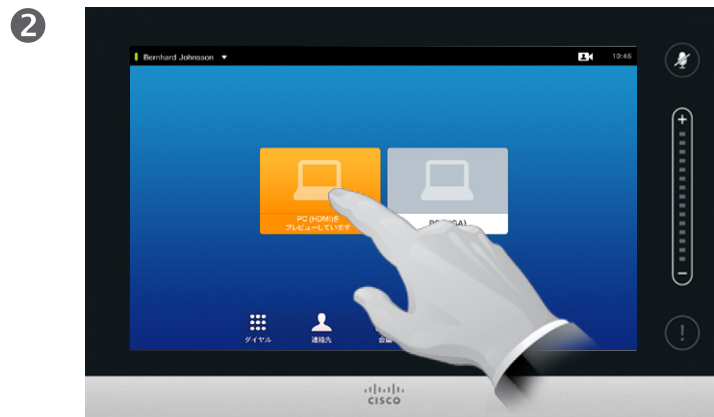


通話中ではない場合のプレゼンテーション

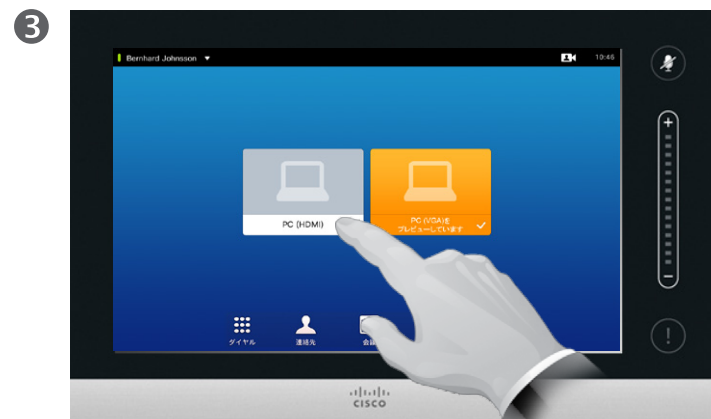
ローカル共有について



ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認したら、[共有] をタップします。



このソースをビデオ システムのディスプレイに表示するには、ソース アバターをタップします。2 画面のシステムの場合は、表示するもう一方のソース アバターもタップします。1 画面のシステムの場合は、ソース アバターは 1 つしか表示されません。



対応するソースの表示を停止するには、図のように、もう一度タップします。

システムが通話中ではない場合でも、システムの画面にコンテンツを表示できます。

この場合に利用するのは、プレビュー機能です（「[通話中のプレゼンテーションの開始と停止](#)」（31 ページ）を参照）。

2 画面のビデオ システムでは、独立した 2 つのソースから同時にコンテンツを共有できます。この機能を実行できるのは、通話中ではない場合に限られます。このオプションは、通話中には使用できません。

左の例では、デュアル ディスプレイを使用していますが、基本的な内容は 1 画面のシステムにも当てはまります。



31



ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。こうすると、予定されている会議がタッチ デバイスの会議リストに表示されます。

31

予定されている 会議

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence
Profile シリーズ、Codec C シリーズ、
Quick Set C20
SX20 Quick Set、MX200、MX300
制作:2014 年 12 月(TC7.3)
All contents © 2010-2014
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

予定されている会議 会議リストの表示

1



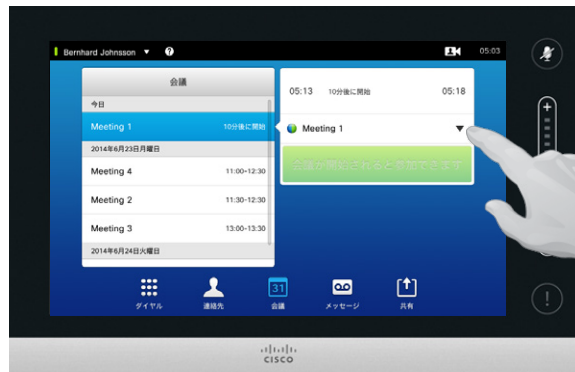
[会議] をタップして、会議リストを呼び出します。

2



会議リストは通常、ここに示すような外観になります。

リストのエントリをタップして、会議についての詳細情報を入手します。



図のように、小さな展開記号をタップすると、さらに詳しい情報が表示されます。



情報ボックスを折りたたむには、もう一度タップします。

会議リストの基本

ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。こうすると、予定されている会議が会議リストに表示されます。

会議のリストには、次の会議、つまり、今後 14 日間（この設定はビデオ サポートチームが変更している場合があります）の間に実施が予定されている会議のリストが含まれています。リストは、グループのヘッダーを使用してソートすることができます。メインのグループ化カテゴリは日（今日、明日、2014 年 6 月 20 日水曜日など）です。

リスト内の項目をタップすると、詳細が表示されます。

予定されている会議がプライベート会議として表示される場合は、主催者についての情報のみが表示されます。タイトル、展開可能なミーティングの概要、およびダイヤルイン情報は表示されません。

31

予定されている会議に参加する



リスト内の会議を
タップすると、その会議の
詳細が表示されます。

予定されている会議の開始時間と終了時間は、
会議情報を展開すると表示されます。



進行中の会議を延長する

予定されている会議の開始時間と終了時間は固定されています。進行中の会議を延長することができます。関連するビデオ システムに他の会議がスケジュールされていない場合は、延長可能な時間だけ会議が自動的に延長されます。

延長可能な場合は、[会議が終了します] 通知に [延長] オプションと [表示を消す] オプションが表示されます。

会議を延長するには、[延長] ボタンをタップします。

参加について

会議が開始されると参加できます

デフォルトの設定では、最大 10 分前から参加できますが、ビデオ サポート チームが異なる設定を実装している場合があります。

会議に参加

予定されている会議に自動的に接続される場合もあれば、[会議に参加] をタップすることが必要な場合があります。



会議が開始されるとメッセージが表示され、すぐに会議に参加するか、5 分後に再度メッセージを表示するか、またはメッセージを閉じるかを選択できます。



通話中に会議が開始された場合もメッセージが表示され、通話中に他者からの着信があった場合と同じように、現在の通話を終了して会議に参加するかどうかを選択できます。

会議に参加することが可能になると、ビデオ システムにミーティング リマインダが表示されます。ミーティング リマインダが表示されるタイミングは、開始時間のバッファ設定によって異なります。デフォルトのバッファ設定は 10 分ですが、ビデオ サポート チームによって変更されている場合があります。この設定時間よりも前に、会議に参加することはできません。

ミーティング リマインダには、会議の開始時間、または会議が始まってからの経過時間（進行中の会議は [進行中のミーティング] として示されます）を表す時間インジケータが表示されます。

会議の予定開始時間の 30 秒前から 30 秒後までの間、「今すぐ開始」というテキストが表示されます。

並行会議



同時に発生する会議は、「並行会議」と呼ばれます。この例の会議名は、その会議が並行会議であることを示すために使用されています。

会議の選択

並行会議が発生する（2 つ以上の会議が同時に開かれる）たびに、会議リストに通知が表示され、今後の会議がすべて表示されます。参加する会議を選択して参加します。



連絡先

連絡先は、ディレクトリ、発着信履歴、お気に入り の 3 つの部分から構成されています。ディレクトリは通常、社内の電話帳です。発着信履歴は、新着通話のリストです。お気に入り は、頻繁に通話する人または簡単にアクセスできるようにする必要がある人が含まれる、パーソナライズされたリストです。

ディレクトリ

リストをスクロールして、[ディレクトリ] 内のエントリを探す場合：

①



図のように、
[連絡先] を
タップします。

②



必要に応じて、
[ディレクトリ] をタップします。

③



図のように、
リストを
スクロールして
エントリを
探します。

[ディレクトリ] 内のエントリを検索で探す場合：

①



図のように、
[連絡先] を
タップします。

②



必要に応じて、
[ディレクトリ] をタップします。

③



図のように、[検索またはダイヤル] を
タップして仮想キーボードを呼び出し、
名前、番号、または住所を入力します。
入力と同時に、一致すると考えられる
ものが表示されます。

ディレクトリについて

[ディレクトリ] は、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリを編集することはできません。ただし、エントリを [お気に入り] のリストにコピーした上で編集することはできます。

フォルダをタップしてそのコンテンツを表示します。必要に応じて、ディレクトリをスクロールしてフォルダやフォルダ内のエントリを探します。

見つかったら、発着信履歴リストの場合と同じ方法で、通話したり、編集したり、お気に入りのリストに追加したりするエントリをタップします（詳細については、前のページを参照）。

社内ディレクトリ内で検索する場合、検索は現在のディレクトリ フォルダとそのサブフォルダにのみ適用されます。1 つ上のレベルに移動するには、[戻る] をタップします。検索を社内ディレクトリ全体に適用する場合は、検索を開始する前に、フォルダを入力（タップ）しないでください。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新はお気に入りのリストに反映されません。この場合は、お気に入りのリストで、該当のエントリを手動で更新する必要があります。



発着信履歴から通話する

発着信履歴リストにアクセスするには：

1



図のように、
「連絡先」を
タップします。

2



リストをスクロール (a) するか、[検索またはダイヤル]
フィールドをタップ (b) して仮想キーボードを呼び出し、
名前、番号、または住所を入力します。入力と同時に、
一致すると考えられるものが表示されます。

1 つのエントリを削除する場合：

1



発着信履歴リスト内
のエントリをタップし
て選択します。
次に、図のように
その他 (...) を
タップします。

2



[発着信履歴から削除] を
タップして、エントリを削除
します。確認メッセージが
表示されます。

プライバシー上の理由で、エントリを発着信履歴
リストから削除したり、リスト全体をクリアしたり
することができます。

同じ人からの着信や同じ人への発信が数回あった
とします。このような通話ごとに、発着信履歴
リストにエントリが作成されます。

リスト内の 1 つのエントリの削除を選択しても、
そのエントリの他の通話記録はリストから削除
されないことに注意してください。

発着信履歴リスト全体をクリアする場合：

1



必要に応じて
「連絡先」を
タップします。

2



図のように、
スクロール
してリストの
先頭に移動
します。

3



図のように、
「発着信履歴のクリア」を
タップします。

発着信履歴について

発着信履歴には、最後にリストがクリアされ
たときからの着信、発信、不在着信が一覧
表示されます。

エントリをタップして、次の操作を実行でき
ます。

- [発信] をタップして、エントリに発信します。
- エントリを進行中の通話に追加します（オ
プション）。
- エントリを [お気に入り] に追加します。
- エントリ情報を編集してから発信します。
- 帯域設定を変更します。
- エントリをリストから削除します。
- リスト全体をクリアします。



お気に入り

お気に入りについて

ディレクトリまたは発着信履歴から誰かをお気に入りのリストに追加する場合：

①



[連絡先] パネルで、必要に応じて [ディレクトリ] または [発着信履歴] をタップします。

②



図のように、リストをスクロールしてエントリを探します。

③



図のようにエントリをタップ (a) し、その他 (●●●) をタップ (b) します。

④



図のように、[お気に入りに追加] をタップします。

⑤



[保存] をタップし、メニューを終了して変更を適用します。名前または URI をタップすると、エントリを編集できます。

⑥



お気に入りにしたばかりの人に発信することもできます。

誰かをお気に入りのリストに手で追加する場合：

①



図のように [検索またはダイヤル] をタップして、仮想キーボードを呼び出します。

②



名前、番号、または住所を入力します。入力と同時に、一致すると考えられるものが表示されます。

③



目的のエントリが見つかった場合はそのエントリをタップして (a)、図のように小さな矢印をタップします (b)。その後、上記の手順 3 から実行します。



誰かを通話中にお気に入り追加する

この機能について

1



通話中に、アバターをタップします。
複数の参加者とのビデオ会議中に、お気に入り追加するアバターをタップします。

2



図のように、
「お気に入り追加」を
タップします。

3



必要に応じて、
エントリを編集
します。

4



図のように、「閉じる」を
タップして、キーボードを
非表示にします。

5



図のように、「保存」を
タップして、新しいお気に入り
を追加します。

誰かをお気に入りのリストに追加するには、いくつかの方法があります。そのうちの 1 つを使用して、通話中に誰かをお気に入り追加することができます。

通話後に、通話の相手先をお気に入りのリストに追加する必要があったことに気が付くことがあります。これを行うには、そこから「発着信履歴」と「お気に入り追加」を使用します（「[発着信履歴から通話する](#)」(40 ページ) を参照)。





ビデオ会議中にいつでも、ビデオ システムのカメラを操作できます。相手先が最高のエクスペリエンスを得られるように、相手先がカメラを操作することもできます。

このシステムでは、カメラ ビューを簡単に切り替えるためにカメラ プリセットを事前定義できます。



カメラ

カメラ設定の表示



図のようにカメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

定義されたカメラ プリセットがある場合は、ここに一覧表示されます。

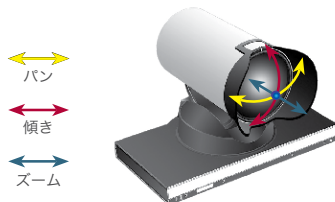
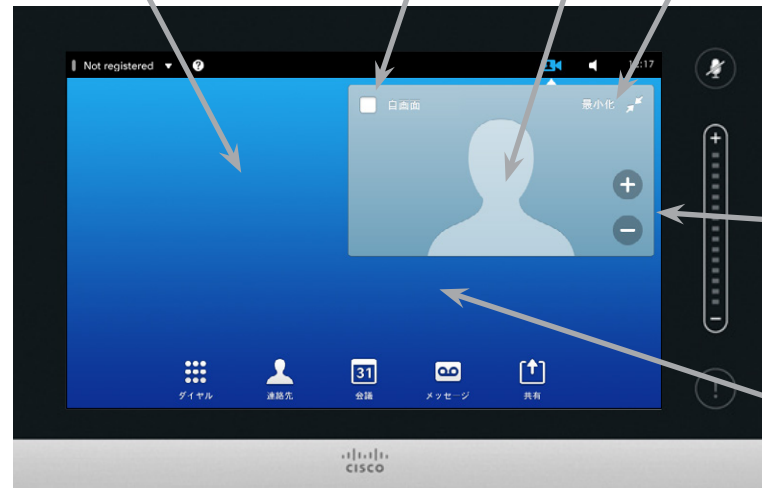
パン コントロール / 傾きコントロール。

自画面のオン / オフを切り替えます。

自画面を最大化または最小化します。

拡大および縮小します。

操作するカメラを選択します
(複数のカメラを含む設定用)。



カメラ設定について

カメラ設定では、カメラのズーム、パン、および傾きの操作に加えて、カメラ位置プリセットの定義および編集を行うことができます。

さらに、自画面（システムから他者に見える画像）のオン / オフに加えて、自画面の最大化 / 最小化を行うことができます。

自画面が画面上の画像の重要な部分を遮っている場合は、自画面の位置を移動できます。この移動方法は、[「自画面 PiP の移動」](#) (51 ページ) に記載されています。



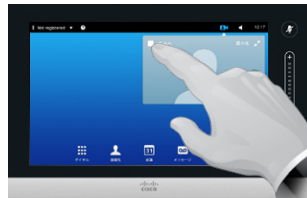
カメラ位置プリセットの追加

1



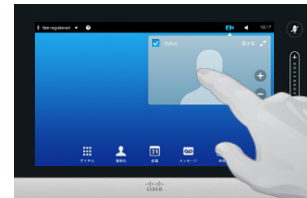
図のようにカメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

2



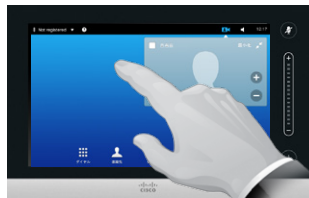
自画面をタップして有効化します。

3



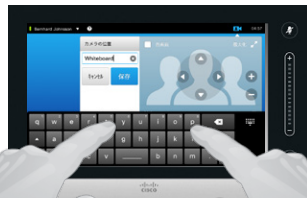
必要に応じて、**傾き**、**パン**、および**ズーム**を調整します。

4



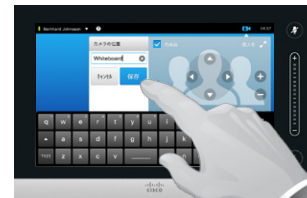
図のように、[新たに追加]をタップします。

5

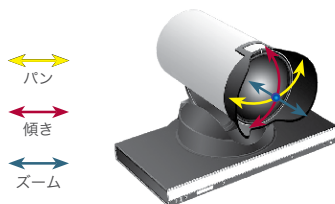


わかりやすい名前を入力します。

6



変更を適用してメニューを終了するには [保存] を、変更を元に戻してメニューを終了するには [キャンセル] をタップします。



カメラ プリセットについて

ビデオ システムでは、事前定義されたズームおよびカメラの向く方向（パンと傾きとも呼ばれます）を作成できます。必要に応じて、これらを使用してプレゼンターを拡大します。その後、忘れずにズームアウトしてください。

つまり、1 つまたは複数のズームイン プリセットを作成する場合は、ズームアウト（概要）プリセットも作成して、概要モードに簡単にスイッチバックできるようにする必要があります。

相手先カメラ、つまり、他のいずれかの参加者のカメラは操作できます（リモート操作可能な場合）が、それらのプリセットを定義したり、利用したりすることはできません。



既存のカメラ位置プリセットの編集

①



図のようにカメラをタップして、カメラ調整の効果を確認します。

②



自画面をタップして有効化します。

③



必要に応じて、**パン**、**傾き**、および**ズーム**を調整します。

④



編集するプリセットの小さな矢印をタップします。

⑤



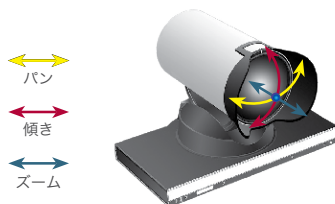
図のように、「現在のプリセットを上書き」をタップして変更を適用します。

既存のプリセットを削除するには「削除」をタップします。

⑥



メニュー以外の場所をタップして、メニューを閉じます。



プリセット編集について

プリセットを編集するには、既存のプリセットを取得して変更し、同じ名前で保存します。名前を変更する場合は、プリセットを削除してから、適切な名前で新しいプリセットを作成することをお勧めします。



自分のカメラを操作する

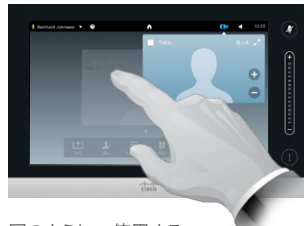
カメラ位置プリセットを使用する場合：

①



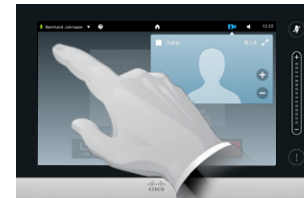
通話中（この図）
または通話外で、
図のようにカメラを
タップします。

②



図のように、使用する
プリセットを選択します。

③



メニュー以外の場所をタップして
終了します。

カメラのパン、傾き、およびズームの調整：

①



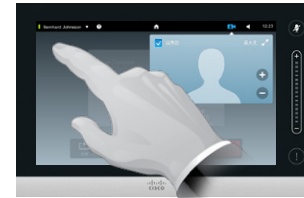
通話中（この図）
または通話外で、
図のようにカメラを
タップします。

②

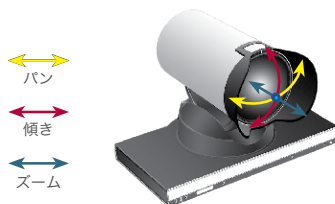


図のように自画面をタップし（a）、
パン、傾き、およびズームを調整
します（b）。

③



メニュー以外の場所をタップして
終了します。



カメラ操作について

通話中には、既存のカメラ プリセットをすぐに使用できます。

ビデオ システムに複数のカメラがある場合があります。たとえば、1 つのカメラで参加者を映し、もう 1 つのカメラでホワイトボードを映している場合などです。

新しいカメラ プリセットを追加したり、既存のカメラ プリセットを変更する必要がある場合、通話外と同じ方法で行えます（詳細については、「[既存のカメラ位置プリセットの編集](#)」（46 ページ）を参照）。

プリセットを追加したり、編集したりする代わりに、カメラのパン、傾き、およびズームを簡単に調整することも検討する必要があります。



スピーカートラッキング

①



スピーカートラッキングを有効にするには、図のようにカメラをタップします。

②



図のように、タップして、スピーカートラッキング機能をアクティブにします。

③



メニュー以外の場所をタップして終了します。

スピーカートラッキングを非アクティブにするには、この手順を繰り返します。

スピーカートラッキングについて

スピーカートラッキング カメラ システムを搭載したシステムでは、ビルトイン マイク アレイと連動する 2 台のカメラを使用します。システムがプレゼンターを追跡して表示するので、[カメラ操作] メニューや [カメラプリセット] を使用して拡大または縮小する必要はありません。

スピーカートラッキングがアクティブになっても、カメラ位置プリセットはそのまま利用できます。ただし、スピーカートラッキング モードでカメラ位置プリセットをタップすると、いずれかのカメラが操作に追従して、スピーカートラッキングは非アクティブになります。

必要に応じて、このページで示されているように、もう一度スピーカートラッキングをアクティブにします。



自画面の管理

通話外の場合：

①



図のように、カメラをタップします。

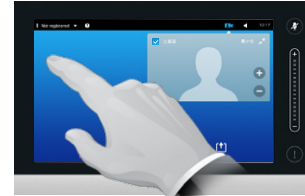
②



自画面をタップしてオンにします。

これで、自画面画像のサイズを変更したり（詳細については、次のページを参照）、カメラのパン、傾き、およびズームを操作したり（詳細については、前のページを参照）することができるようになりました。

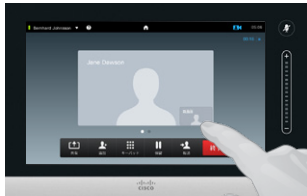
③



メニュー以外の場所をタップして終了します。

通話中の場合：

①



図のように、自画面アバターをタップします。

②

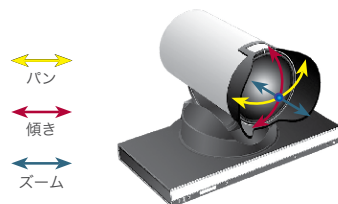


これで、自画面をオフに切り替えたり、最大化または最小化したり、カメラを選択してカメラ操作にアクセスしたり（カメラ操作に関する詳細については、前のページを参照）することができるようになりました。

③



メニュー以外の場所をタップして終了します。



自画面について

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的通りの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP（Picture-in-Picture）として表示されます。

必要に応じて、自画面 PiP の位置は変更できます。これに関する詳細については、「[自画面 PiP の移動](#)」（51 ページ）を参照してください。



自画面 PiP のサイズを変更する

1



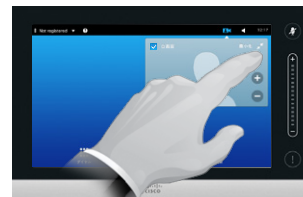
図のように、カメラをタップします。

2



自画面をタップしてオンにします。

3

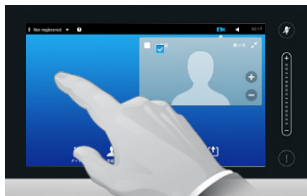


これで、[最大化]をタップしてフルスクリーンの自画面にすることができるようになりました。

このプロセスを繰り返して、もう一度自画面アイコンをタップすることで、自画面を最小化したり、無効化したりします。

また、自画面アイコンを使用して、自分のカメラを操作することもできます。

4



このメニューを終了して変更を適用するには、アクティブなメニュー以外の場所をタップします。

自画面のサイズを変更する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的通りの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (Picture-in-Picture) として表示されます。

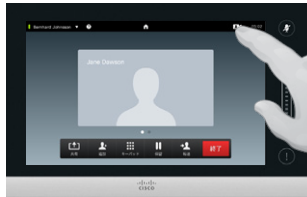
会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。

他の参加者が見やすくなるように、カメラをズーム、パン、または傾けることができます。見やすくするために、自画面を最大化できます。



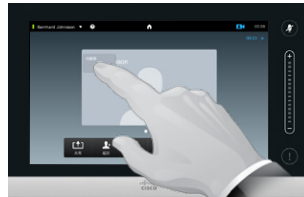
自画面 PiP の移動

1



必要に応じて、図のように画面の右上部分にある自画面をタップして呼び出します。

2



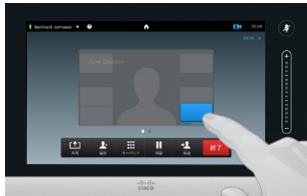
図のように、自画面エリア内を指で長押しします。

3



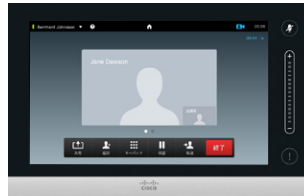
青になったらすぐに、自画面を新しい場所にドラッグします。図のように、移動可能な場所が示されます。

4



入れる位置までドラッグしたら、タッチスクリーンから指を離します。

5



これで、自画面がその新しい場所に設定されます。

自画面を移動する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (Picture-in-Picture) として表示されます。

会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。たとえば、同じ部屋にいる講演者があちこち動き回っても、常にスクリーンに映っていることを確認したい場合などです。

自画面の現在の位置によって、画面上の画像の重要な部分が遮られる場合があります。このような場合に、自画面を移動することができます。



他の参加者のカメラを操作する

1



通話中に、他の参加者を表すアバターをタップします。

複数の参加者とのビデオ会議中に、カメラを操作したい参加者のアバターをタップします。

2



図のように、[カメラ] をタップします。

3

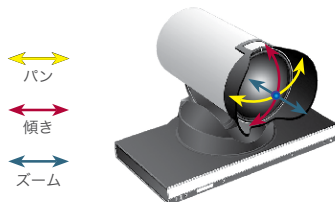


カメラのパン、ズーム、および傾きを調整します。

4



図のように、メニュー以外の場所をタップして終了します。



カメラ操作について

ビデオ会議では、話している相手を示す「相手先」という用語がしばしば使用されます。

同様に、ビデオ会議のこちら側の人を示す「こちら側」という用語もしばしば使用されます。

相手先カメラを操作する機能は、相手先システムのカメラがリモート操作可能である必要があります。手動でカメラを調整するシステムには、この機能を適用できません。

相手先のビデオ システムに存在するプリセットにはアクセスできません。



このガイドで使用方法が説明されているビデオ エンドポイントは、タッチ画面コントロールまたは Web インターフェイスから設定できます。設定可能なパラメータすべてにアクセスするには、Web インターフェイスが必要です。タッチ パッドでは、一部のパラメータにしかアクセスできません。



設定にアクセスするには

設定について



左上隅のフィールドをタップします。



[設定] をタップします。



リストをスクロールして目的の項目を探します。

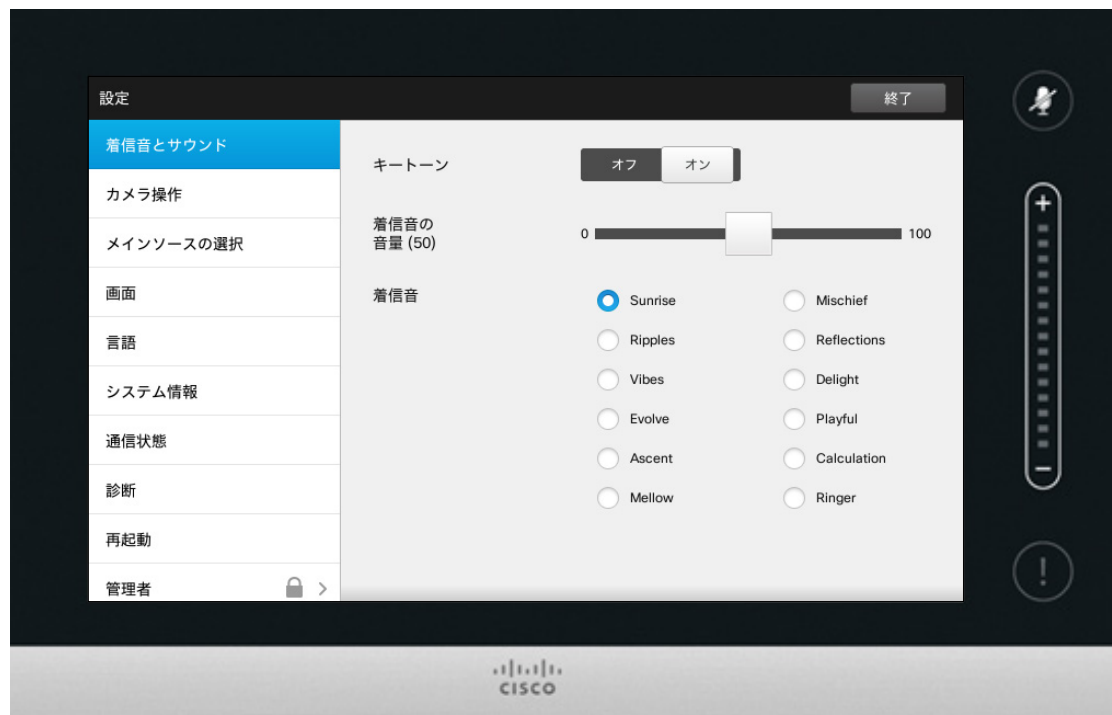
設定を変更する場合は、システムが動作を停止しないように注意を払う必要があります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームに問い合わせてください。

セキュリティ上の理由により、ビデオ サポート チームによって、管理者設定へのアクセスがパスワードで保護されている場合があります。

[設定] にアクセスするには、図のようにタッチパッドの左上隅の設定アイコンをタップします。



着信音とサウンド



[着信音とサウンド] について

[着信音とサウンド] 設定ウィンドウを使用して、次の項目を指定できます。

- [キートーン] : [オン] または [オフ] に設定できます。オンに設定すると、タッチ コントローラのフィールドをタップするたびに、サウンドが鳴ります。
- [着信音の音量] : 着信音の音量を設定できます。
- [着信音] : いくつかの着信音から選択できます。着信音をタップするたびに、サンプル音が鳴ります。

各設定を選択した場合にどのように示されるかに注意してください。この例では、[キートーン] が [オン] に設定されています。

このメニューを終了して変更を適用するには、[終了] をタップします。変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



カメラ操作

カメラ操作について



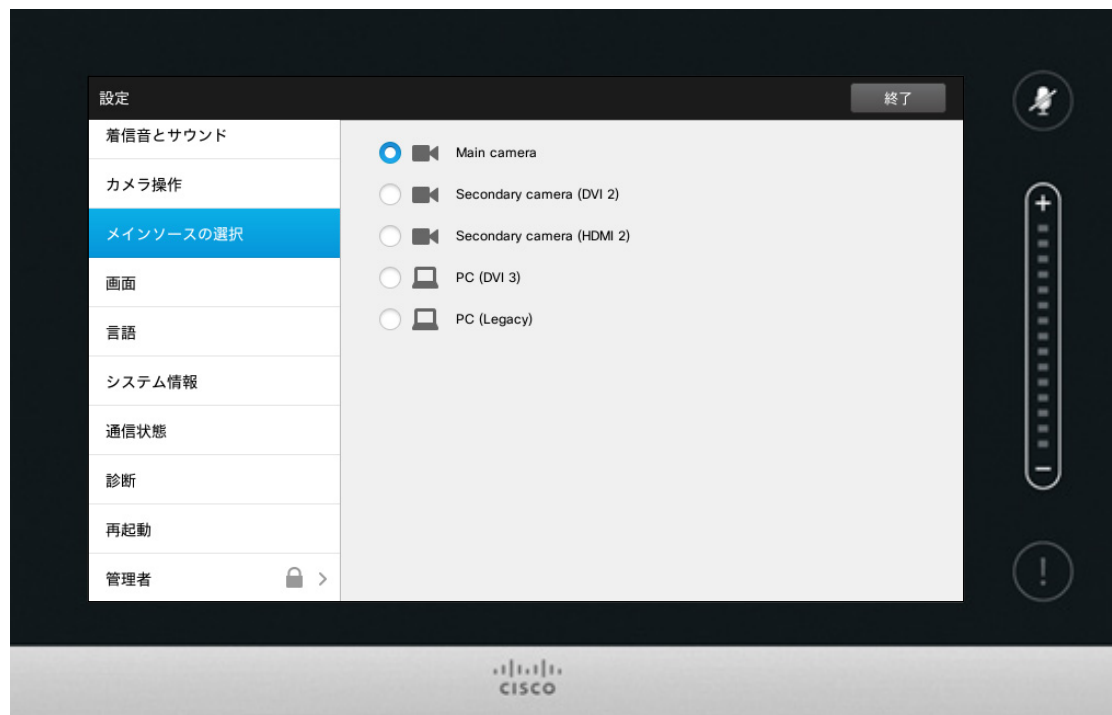
[カメラ操作] ウィンドウを使用して、カメラのホワイトバランスと露出を設定することができます。自身で微調整しない場合は、[自動] をタップして設定をシステムに任せます。

背後の光が強い場合は、逆光補正が役立ちます。補正しない場合、相手先に自分が暗く表示されます。

各設定を選択した場合にどのように示されるかに注意してください。この例では、[逆光補正] が [オフ] に設定されています。



メイン ソースの選択

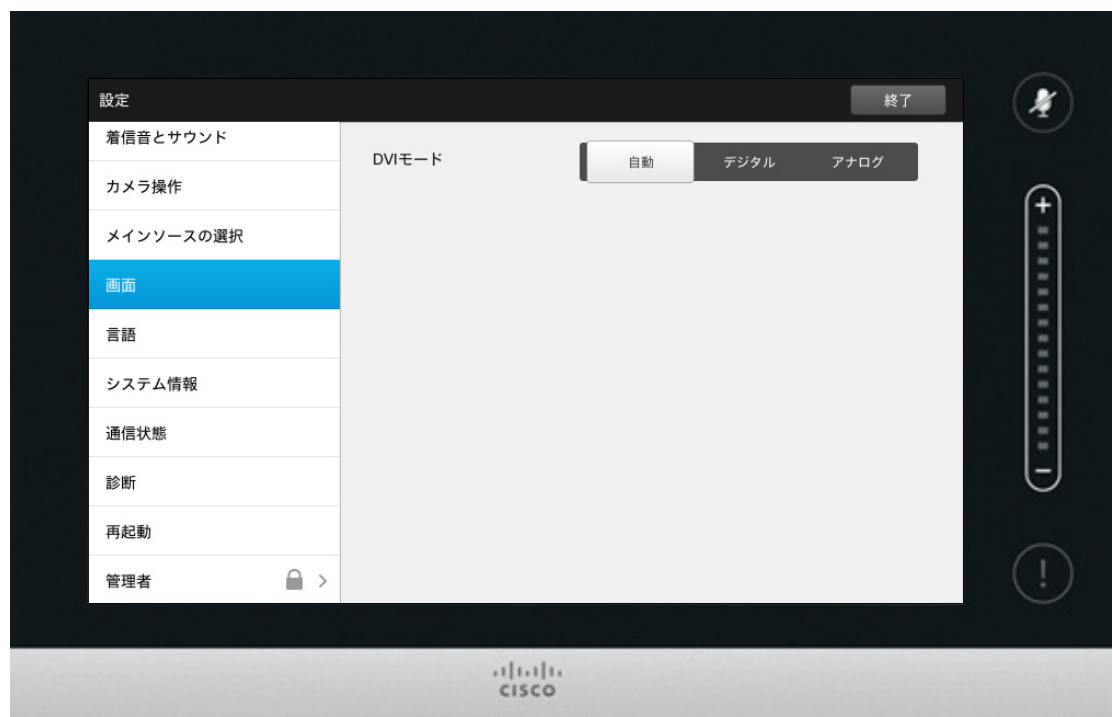


ソースの選択について

メイン ソースを選択します。システムの操作
中に別のソースを選択することができます。
ただし、ここで指定したソースがデフォルト
設定になります。

使用可能なオプションはシステムにより異な
ります。使用するシステムによっては、より
多くの数のオプションが表示されたり、少な
い数のオプションが表示されたりすること
があります。



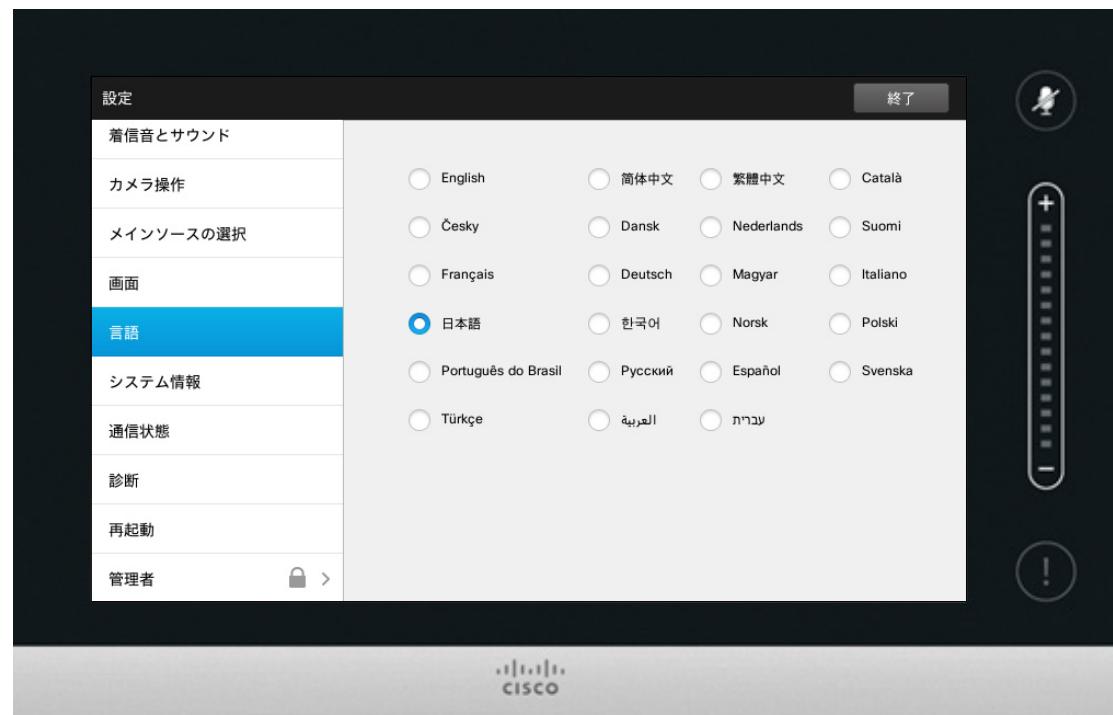


DVI モードについて

このメニューでは、DVI モードをアナログ、デジタル、または自動検出に設定できます。



言語の選択



言語設定について

[言語] ページを使用して、タッチ インターフェイス メニューの言語を指定することができます。



システム情報

[システム情報] について



[システム情報] ウィンドウには、システムのソフトウェアとハードウェアのバージョン、および接続に関する情報、SIP と H.323 のステータスなどが含まれています。

システムに不具合が発生した場合、技術スタッフからこれらの情報を提供するように求められます。



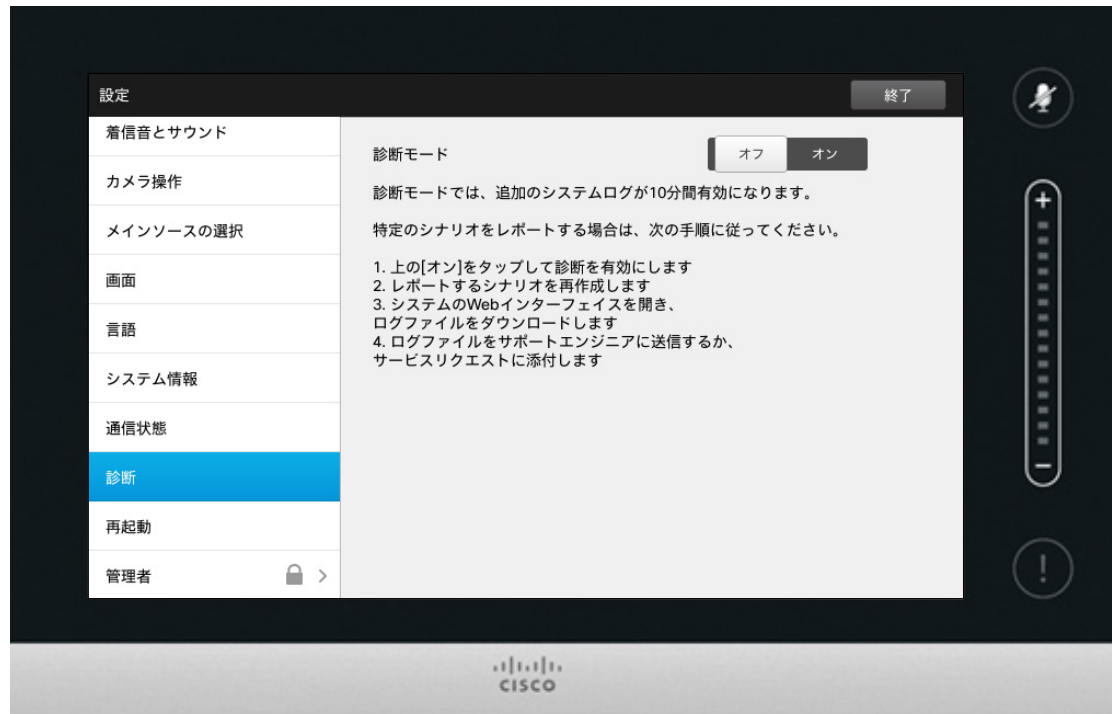


[通信状態] ウィンドウには、帯域、暗号化、並びに重要なビデオおよび音声パラメータに関する情報が表示されます。

システムに不具合が発生した場合、技術スタッフからこれらの情報を提供するように求められます。

診断モード

[診断] について



トラブルシューティングのために、追加のシステム ログを有効にできます。画面の指示に従います。

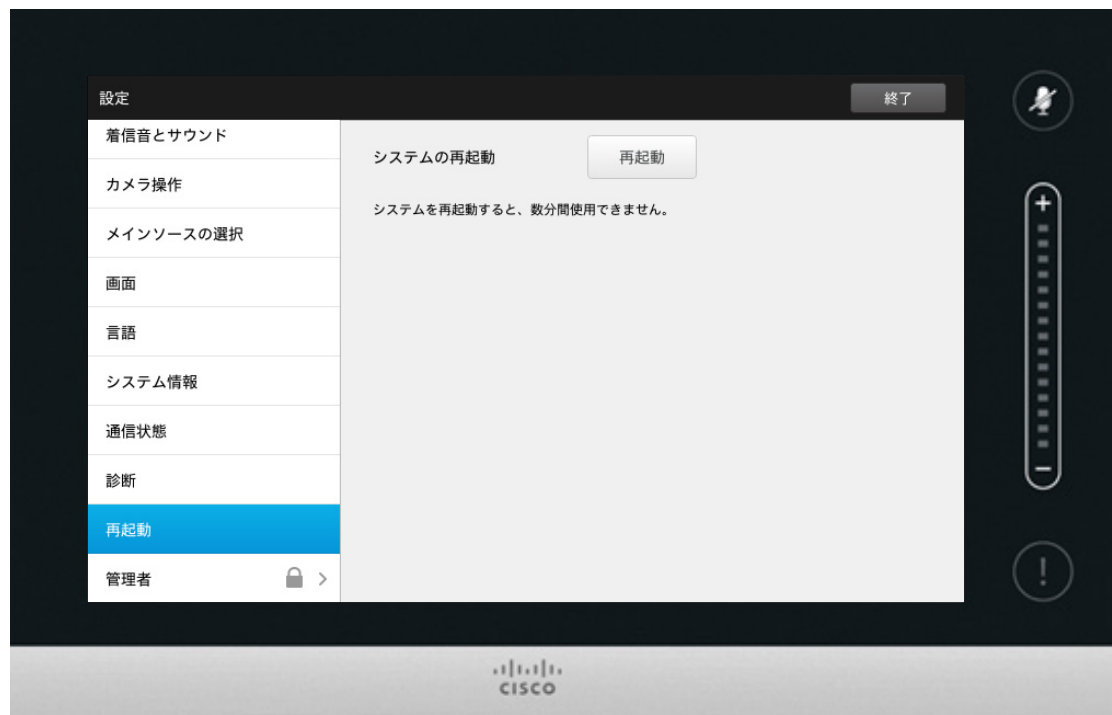
システム パフォーマンスは、そのときに行われているシステム ログ記録による影響を受ける可能性があることに注意してください。

システムに不具合が発生した場合、技術スタッフからこれらの情報を提供するように求められます。



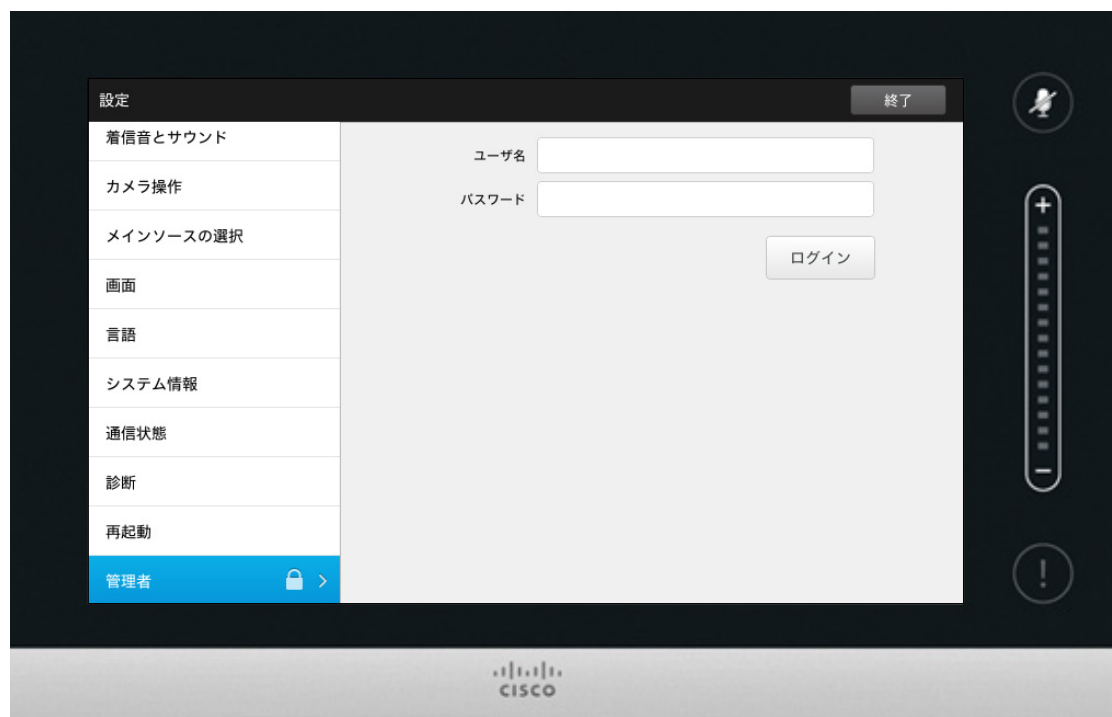
システムの再起動

[再起動] について



この機能を使用して、システムを規定どおりの正しい方法で再起動することができます。設定は失われません。





[管理者] 設定は、通常、ビデオ サポート チームによってパスワードで保護されています。

[ユーザ名] と [パスワード] を入力して、[ログイン] をタップします。



[管理者設定] - [トラッキング]



図のように、タップして、ホワイトボードへのスナップ セットアップ ウィザードを起動します。

トラッキングについて

スピーカートラッキング用に 2 台のカメラをセットアップしたシステムの場合は、このウィンドウでトラッキング モードを指定できます。[標準] または [高速] を選択します。

さらに、このウィンドウでは、ホワイトボードへのスナップ機能を設定できます。

ウィザードの指示に従って、この機能を設定します。

注：スピーカー トラッキング マイクの感度領域は、床上総高さ（床上からマイクの位置まで）です。このマイクは、ホワイトボードの側に立っているプレゼンターに反応するようにシステムを設定するために使用します。プレゼンターがホワイトボードの前に座ると、スナップ機能は呼び出されません。

この機能を有効にするために、システムは定義されたホワイトボード領域の上半分の位置で、顔と声を認識しようとしています。

ホワイトボードは、カメラ システムと反対側の壁に設置する必要があります。この機能は、上記以外の入射角を想定していません。

ホワイトボードへのスナップ機能の詳細については、ビデオ システムの管理者ガイドを参照してください。

D1458221 ユーザ ガイド Cisco TelePresence Profile シリーズ、Codec C シリーズ、

Quick Set C20
SX20 Quick Set、MX200、MX300

制作:2014 年 12 月(TC7.3)

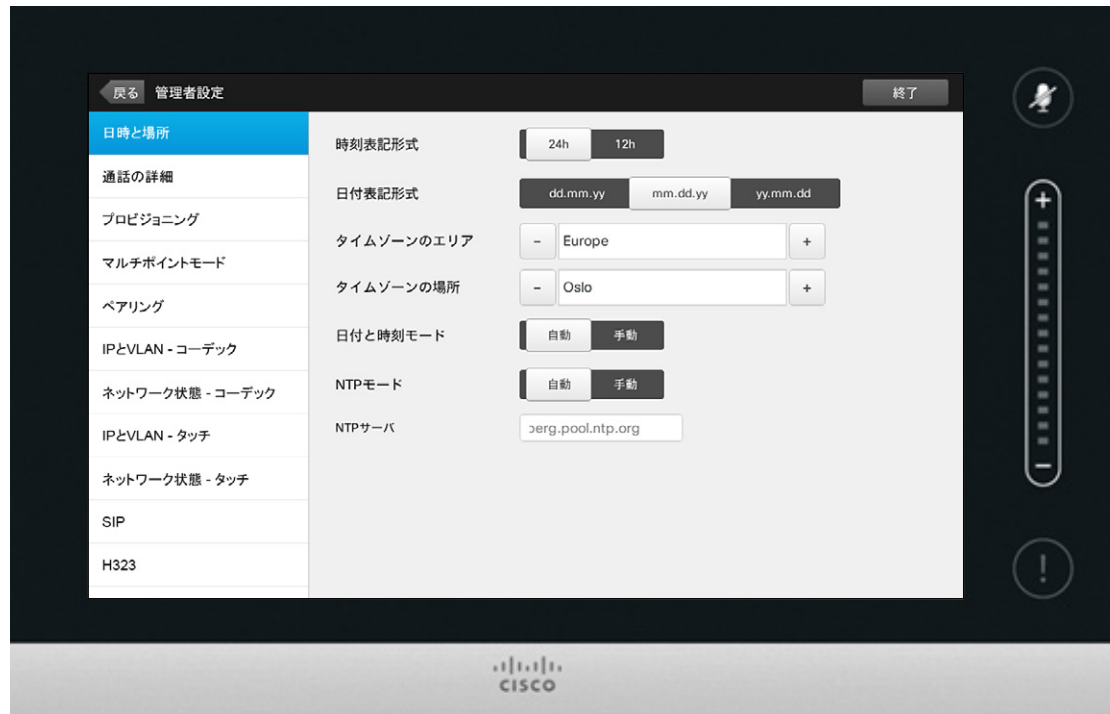
All contents © 2010-2014

Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



[管理者設定] - [日付と時刻の設定]

時刻設定について



このウィンドウを使用して、使用する日付と時刻の表記形式、およびタイムゾーンを指定することができます。

この例に示されているように、[日付と時刻モード] を [自動] に設定すると、NTP サーバが検索され、そのサーバから日付と時刻が取得されます。

この例に示されているように、[NTP モード] を [手動] に設定した場合は、NTP サーバのアドレスを指定して、処理が正常に実行されるようにする必要があります。



[管理者設定] - [通話の詳細]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



[通話の詳細] について

[自動応答] を有効にすると、指定された遅延の後に、システムが着信に自動的に応答します。自動応答をアクティブにすると、必要なプライバシーが得られない可能性があります。ここに示した例では、[自動応答] は [オフ] に設定されています。

場合によっては、通話の帯域幅（質）を変更する必要があります。一部の構成の受信帯域幅と発信帯域幅が異なることがあります（ADSL 接続の場合など）。デフォルトの帯域を指定して、ビデオの画質を安定させることができます。

デフォルトのプロトコルを指定することもできます。この例では、プロトコルは [SIP] に設定されています。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

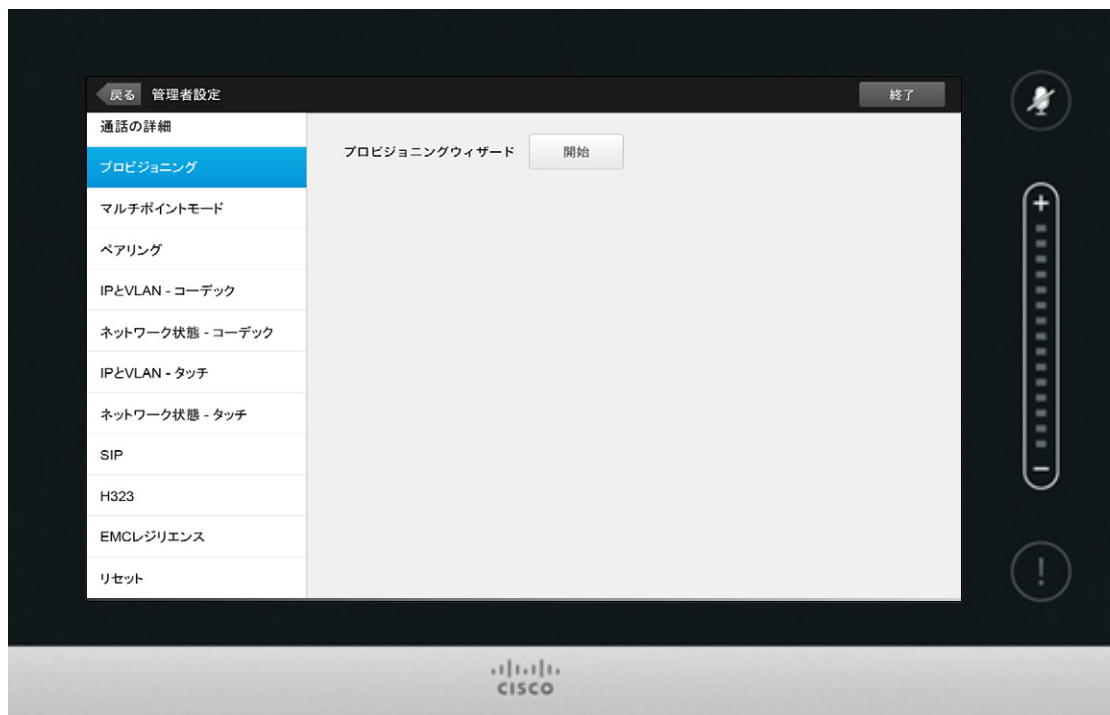


[管理者設定] - [プロビジョニングウィザード]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



ウィザードについて

プロビジョニング ウィザードを使用して、システムをオンラインにすることができます。[開始] をタップして、画面の指示に従います。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

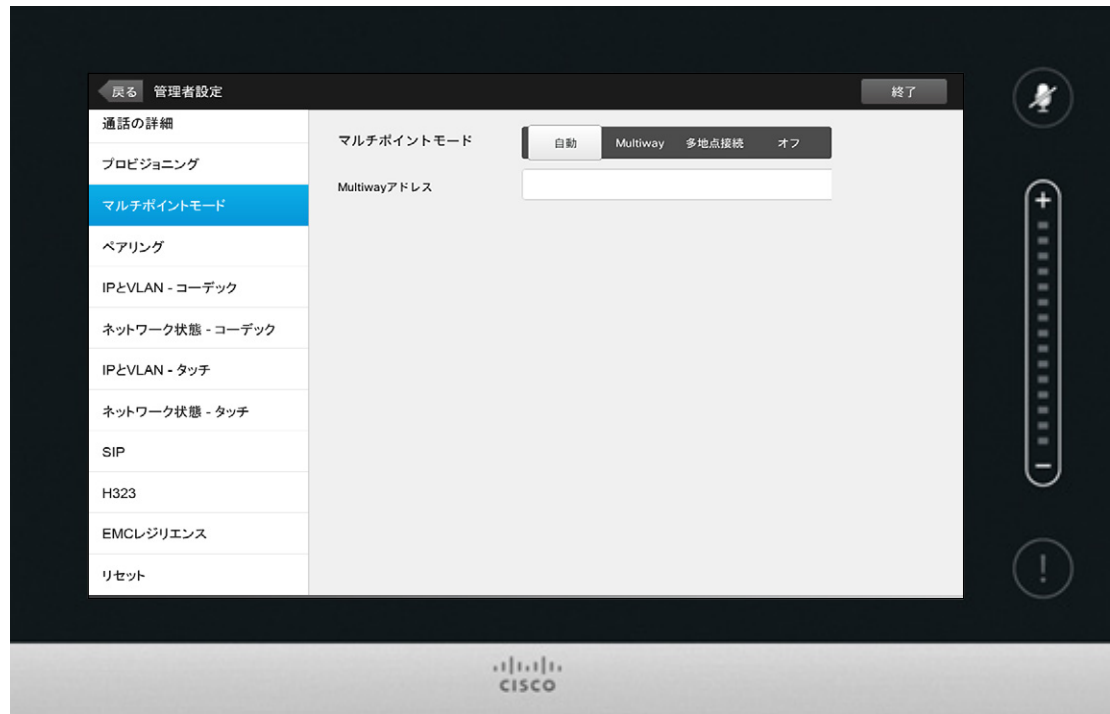


[管理者設定] - [マルチポイントモード]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



マルチポイントについて

基本的に、ビデオ会議には MultiWay と MultiSite という 2 つのモードがあります。

- MultiWay を有効にするには、MultiWay アドレスをあらかじめ入力しておく必要があります。
- MultiWay アドレスが指定され、MultiWay が選択されている場合は、ビデオ会議には MultiWay が常に使用されます。
- MultiWay アドレスが指定されている一方で MultiSite が選択されている場合は、MultiSite が使用されます。
- [自動] に設定すると、MultiWay アドレスが指定されている場合は MultiWay が使用されます。それ以外の場合は、MultiSite が使用されます。
- [オフ] に設定すると、ビデオ会議を実施できなくなります。
- MultiSite 機能を使用するには、MultiSite オプションが表示されている必要があります。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

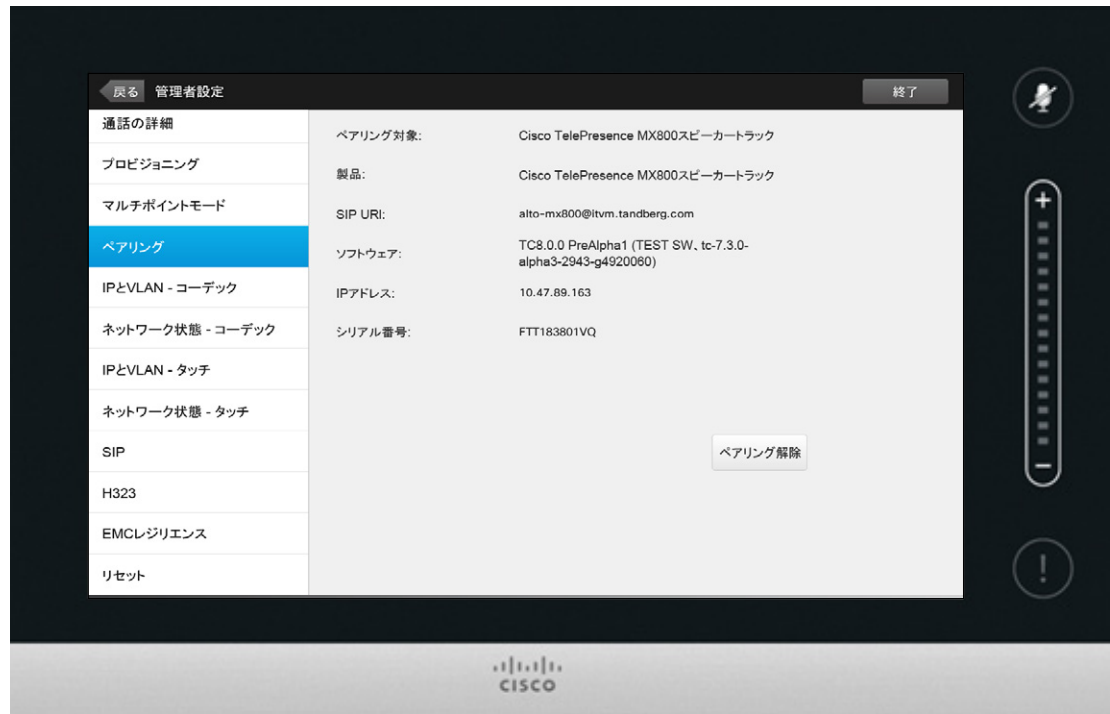


[管理者設定] - [ペアリング]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



ペアリングについて

このウィンドウには、関連するペアリング情報が表示されます。

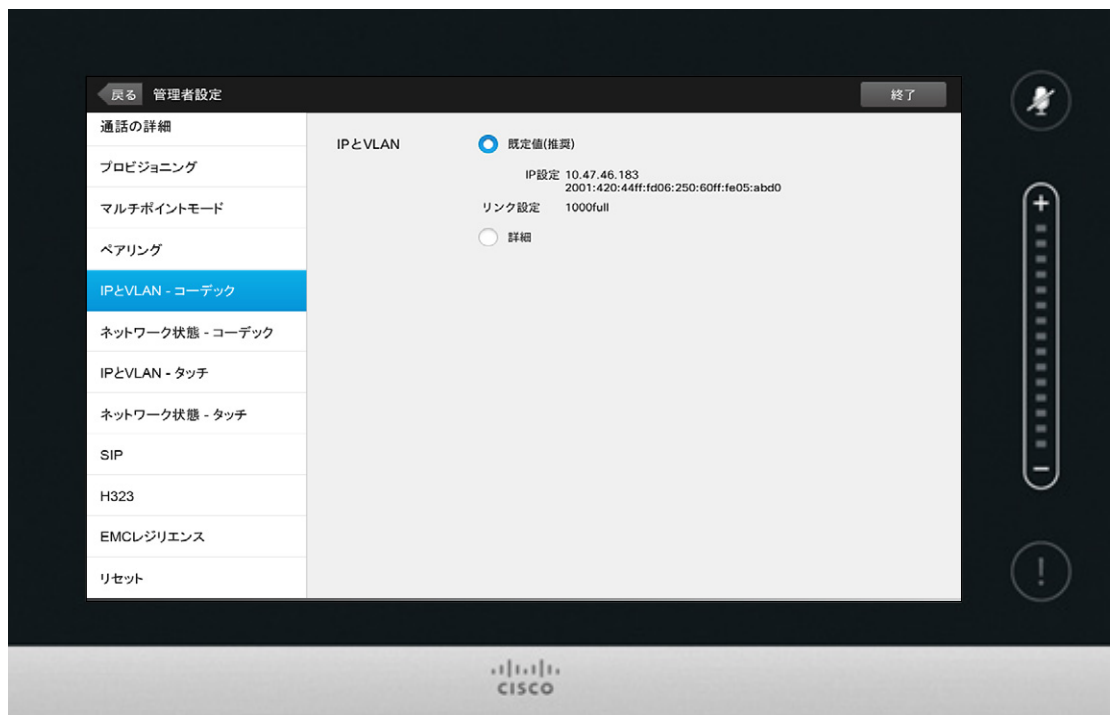


[管理者設定] - [IP と VLAN - コーデック]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



IP 設定について

IPv4 または IPv6 を使用するかどうか、また静的 IP アドレスまたは DHCP を使用するかどうかを指定することができます。

[静的] に設定した場合は、適切なアドレスを適宜設定する必要があります。

これらの設定をデフォルト値から変更する場合は、[詳細] (表示されていません) をタップします。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



[管理者設定] - [ネットワーク状態 - コーデック]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



ネットワーク状態について

これは、万一システムの不具合が発生した場合に、タッチ コントローラの現在のネットワーク状態についての情報がビデオ サポートチームに提供されるように設計されています。

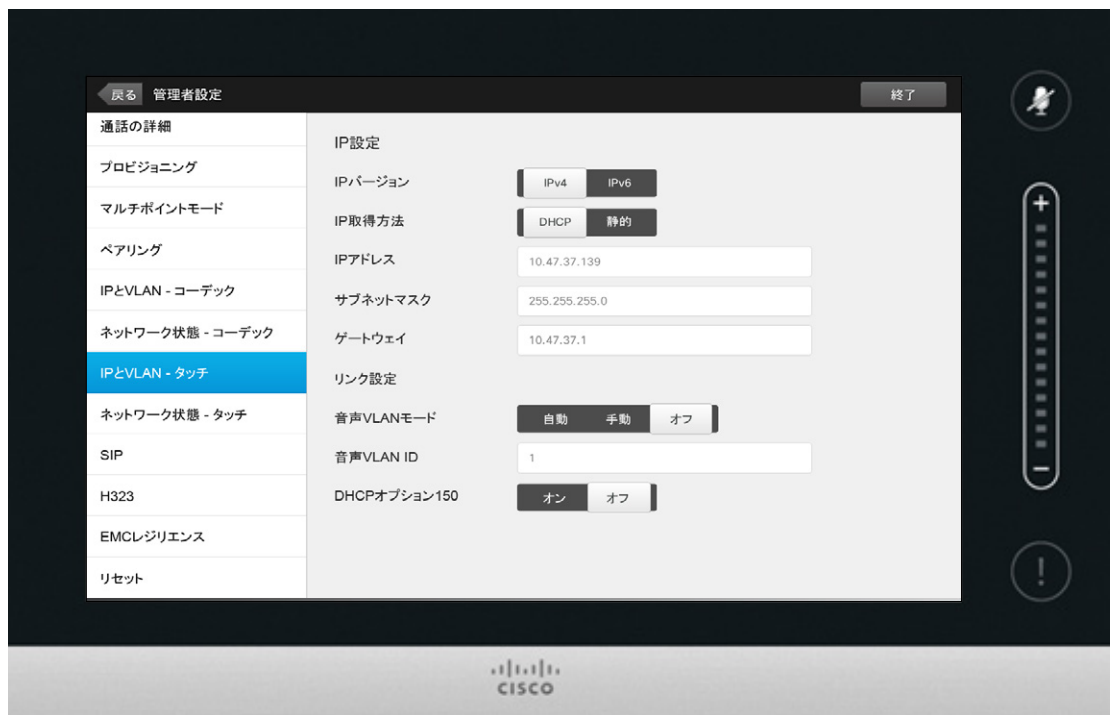


[管理者設定] - [IP と VLAN - タッチ]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



IP 設定について

IPv4 または IPv6 を使用するかどうか、また静的 IP アドレスまたは DHCP を使用するかどうかを指定することができます。

[静的] に設定した場合は、適切なアドレスを適宜設定する必要があります。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

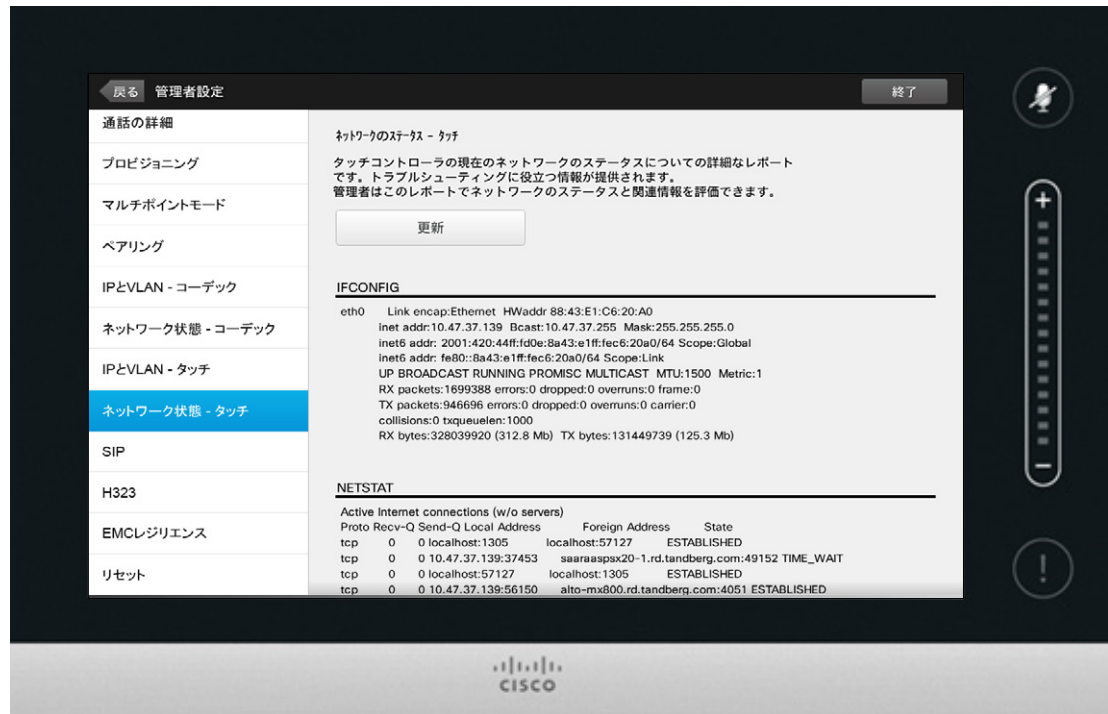


[管理者設定] - [ネットワーク状態 - タッチ]

[管理者設定] を終了するには、
[戻る] をタップ
します。

[設定] を終了する
には、[終了] を
タップします。

変更を元に戻して
メニューを終了する
キャンセル機能は
ありませんので、
ご注意ください。



ネットワーク状態について

これは、万一システムの不具合が発生した場合に、タッチ コントローラの現在のネットワーク状態についての情報がビデオ サポート チームに提供されるように設計されています。



[管理者設定] - [SIP]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

SIP 設定について

このページを使用して、SIP を設定します。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



[管理者設定] - [H323]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

戻る	管理者設定	終了
通話の詳細	H323番号	5037105
プロビジョニング	H323 ID	5037105@itvm.tandberg.com
マルチポイントモード	ゲートキーパーの検出	自動 手動
ベアリング	ゲートキーパーアドレス	
IPとVLAN - コーデック	認証モード	オフ オン
ネットワーク状態 - コーデック	ログイン名	
IPとVLAN - タッチ	パスワード	
ネットワーク状態 - タッチ		
SIP		
H323		
EMCレジリエンス		
リセット		

H323 設定について

このページを使用して、H323 を設定します。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

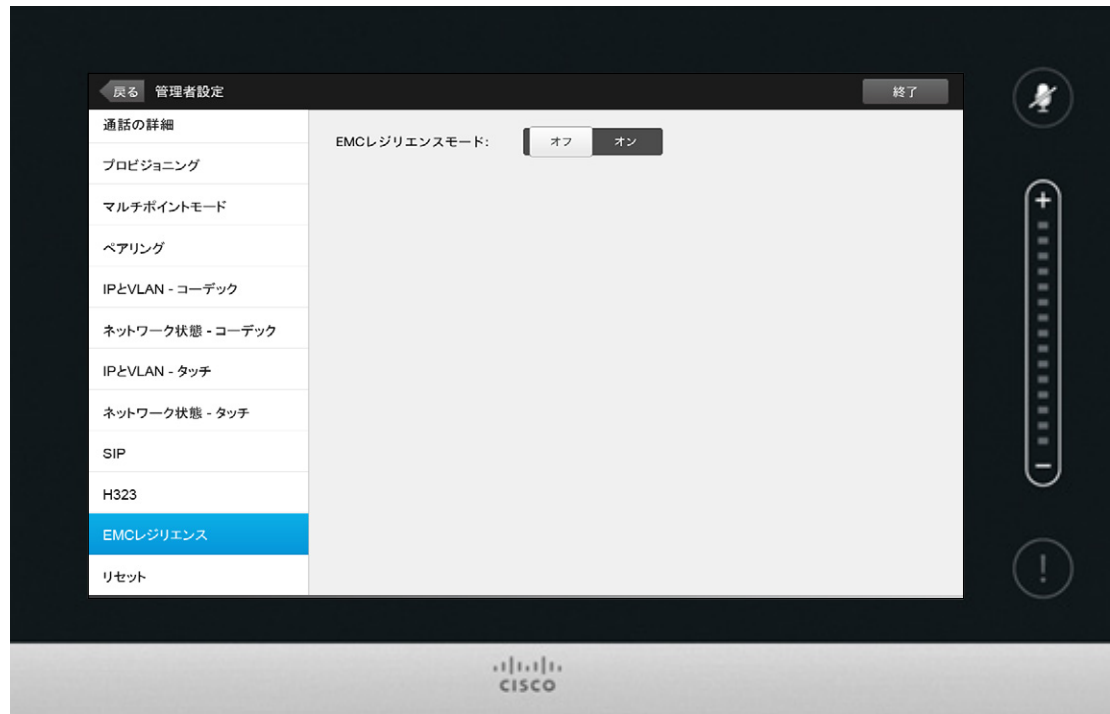


[管理者設定] - [EMC レジリエンスモード]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



[EMC レジリエンス] について

大量の電磁雑音が存在する環境でタッチ コントローラを使用する場合、誰もタッチ コントローラをタップしていないにも関わらず、誰かがタップしたかのような疑似信号が出現することがあります。

この状況に対処するには、EMC レジリエンス モードをオンに設定することができます。次に、システムがタップを認識できるように、タップよりも少し長目に押します。これで、スプリアス信号が出現しなくなります。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

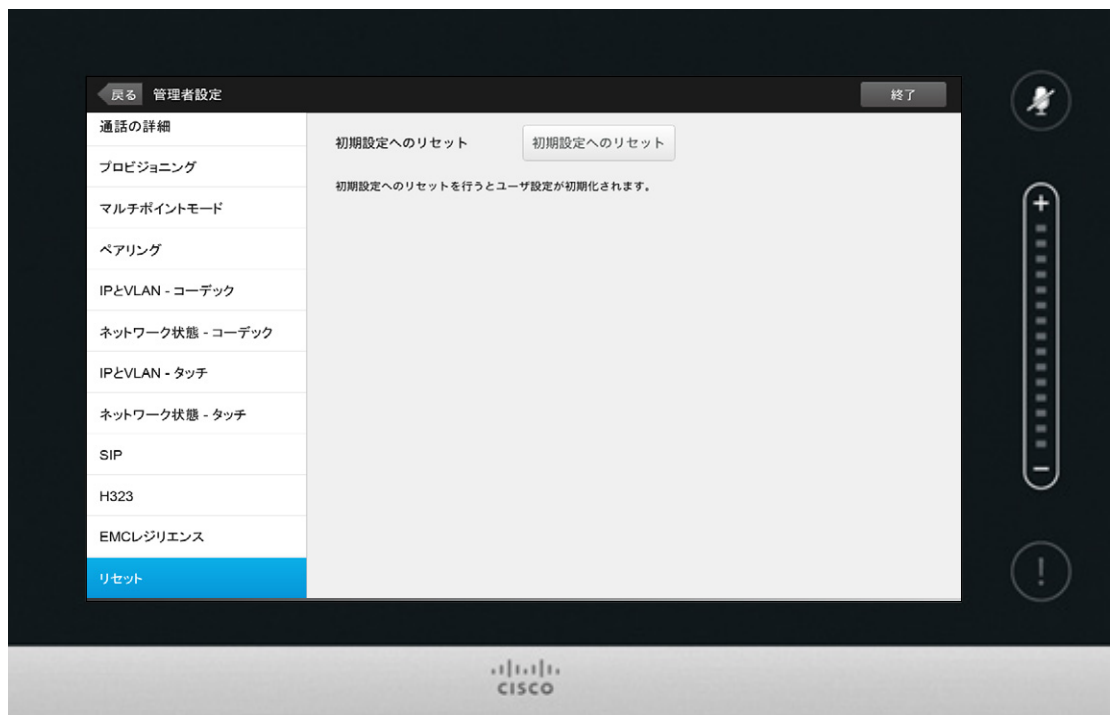


[管理者設定] - [初期設定へのリセット]

[管理者設定] を終了するには、[戻る] をタップします。

[設定] を終了するには、[終了] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



初期設定へのリセットについて

ビデオ システムの初期設定へのリセットを実行できます。すべての設定、通話履歴、および連絡先のローカル リスト（お気に入りと発着信履歴）を失うことに注意してください。インストールされているリリース キーとオプションは維持されます。

注意： 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は 2008 年 10 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>